

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	60時間
科目	Javaプログラミング設計				
教員氏名	藤井 文一郎	実務経験者			
授業の方法	講義、小テスト、演習				
授業概要	<p>コンピュータに問題解決の手順を教えるための言葉であるプログラム言語の習得を目的とする。</p> <p>前期では、JAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技術の修得を目指す。具体的には変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法・役割・動作を学習し、それらを用いて簡単なプログラムを記述できることを目標とする。</p> <p>後期では、学んだ知識を前提にクラスとオブジェクトの概念を理解し、効率よくソフトウェアを記述するための知識として「クラスの継承、フィールド・メソッドの役割、インターフェースの実装」等を学ぶ。さらに、javaを用いたWebアプリケーション開発基本であるServlet・JSPについて学習できる。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラミング言語の制御構文を使用して、基本的なアルゴリズムを組み立てることができる。 2. 配列などの基本的なデータ構造を利用して、データ処理ができる。 3. メソッドの概念を理解し、プログラムを機能ごとに分割できる。 4. クラスの概念を理解し、基本的なクラスを作成できる。 5. 基本的なAPIを利用できる。 6. Servlet・JSPの概念を理解し、JavaのWebアプリケーション開発について理解を含める。 				
	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ガイダンス	授業目標と今後の進め方 Javaの基礎と特徴		
	2	環境の導入	Javaの開発環境のセットアップ		
	3	プログラム書式、変数、データ型	プログラム書式、変数の考え方、データ型について説明		
	4	式と演算子と条件式	Javaで用意されている演算子について説明と演算子を用いた様々な式の表現 条件式(if文)を用いた分岐 条件式(switch文)を用いた分岐と論理演算子		
	5	まとめ(小テスト)①	これまでの内容をまとめ 小テストを行う		
	6	ループ処理	for文用いた繰り返し処理 while文用いた繰り返し処理 do文用いた繰り返し処理 多重の繰り返し処理		
	7	配列とコレクション	1次元配列の使い方とその応用 2次元配列の使い方とその応用 Collection、List、Mapについて		

授業計画 (60h)	8	文字列	Character、String、StringBufferについて
	9	まとめ(小テスト)②	これまでの内容をまとめ 小テストを行う
	10	クラスの応用①	クラス概要 クラスの宣言、修飾子について
	11	クラスの応用②	クラスの継承について説明
	12	クラスの応用③	クラスからインスタンスを生成する方法、インスタンスの状態について メンバ変数とローカル変数の違い、メンバ変数宣言時に付与できる修飾子について
	13	クラスの応用④	メソッドの宣言方法、メソッド宣言時に付与できる修飾子について コンストラクタの概要、宣言方法、コンストラクタを複数宣言する方法について
	14	クラスの応用⑤	アクセスレベルの使用方法について static修飾子が付与されたクラス変数、クラスメソッドについて スーパークラスの概要、利用方法について
	15	まとめ(小テスト)③	これまでの内容をまとめ 小テストを行う
	16	期末試験	
テキスト	やさしいJava 第6版 著者: 高橋 麻奈 出版社: SBクリエイティブ 2016/08/31 定価: 2,580円+税		
参考書	【参考書】 スッキリわかる サーブレット&JSP入門 著者: 国本 大悟 【サイト】 Javaの道 http://www.javaroad.jp/index.htm		
評価基準	1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	60時間
科目	Javaプログラミング設計				
教員氏名	藤井 文一郎	実務経験者			
授業の方法	講義、小テスト、演習				
授業概要	<p>コンピュータに問題解決の手順を教えるための言葉であるプログラム言語の習得を目的とする。</p> <p>前期では、JAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技術の修得を目指す。具体的には変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法・役割・動作を学習し、それらを用いて簡単なプログラムを記述できることを目標とする。</p> <p>後期では、学んだ知識を前提にクラスとオブジェクトの概念を理解し、効率よくソフトウェアを記述するための知識として「クラスの継承、フィールド・メソッドの役割、インターフェースの実装」等を学ぶ。さらに、javaを用いたWebアプリケーション開発基本であるServlet・JSPについて学習できる。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラミング言語の制御構文を使用して、基本的なアルゴリズムを組み立てることができる。 2. 配列などの基本的なデータ構造を利用して、データ処理ができる。 3. メソッドの概念を理解し、プログラムを機能ごとに分割できる。 4. クラスの概念を理解し、基本的なクラスを作成できる。 5. 基本的なAPIを利用できる。 6. Servlet・JSPの概念を理解し、JavaのWebアプリケーション開発について理解を含める。 				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	パッケージとインタフェース	Javaにおけるパッケージの概要について インタフェースの特徴、使用方法について		
	2	例外	例外 (try、catch、finally) について		
	3	Javaオブジェクト指向①	オブジェクト指向プログラミングの概要 メソッドの書き方 クラスとクラスメンバ、コンストラクタ		
	4	Javaオブジェクト指向②	スーパークラス、サブクラス オーバーロード、オーバーライド インタフェース、抽象クラス		
	5	ファイル入出力	Javaでのファイル入出力について		
	6	まとめ(小テスト)①	これまでの内容のまとめ 小テストを行う		
	7	Servlet・JSP/環境の導入	Servlet・JSPの文法・リファレンス情報、 Servlet・JSPを使用したWebアプリケーションの 開発方法について JavaのWebアプリケーション開発環境のセット アップ		
	8	Servlet基礎①	クライアントからのデータ取得、データ返信 初期化パラメータ		
9	Servlet基礎②	スコープ、セッション管理、リスナーにていて			

	10	JSPの概要	JSPの概要について説明
	11	JSPのディレクティブ、宣言、スクリプトレット、式、アクションタグ	pageディレクティブとincludeディレクティブについて JSPの構成要素の内、宣言、スクリプトレット、式について <jsp:include>、<jsp:forward>について
	12	JSPの暗黙オブジェクト	暗黙オブジェクト(request, response, pageContext, session, application, config, page, exception)について
	13	JSPのカスタムタグ	カスタムタグの概要について tldファイルの作成方法について
	14	JavaBeans	JavaBeansの概要 Servlet、JSP、JavaBeansの連携
	15	まとめ(小テスト)②	これまでの内容のまとめ 小テストを行う
	16	期末試験	
テキスト	やさしいJava 第6版 著者：高橋 麻奈 出版社：SBクリエイティブ 2016/08/31 定価：2,580円＋税		
参考書	【参考書】 スッキリわかる サーブレット&JSP入門 著者：国本 大悟 【サイト】 Javaの道 http://www.javaroad.jp/index.htm		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	アルゴリズム				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	毎回資料を配付する。資料は授業終了時に翌週分を配付する。授業の流れは、前週の演習問題の解説、新しい内容の講義、および問題演習となり、いずれもプロジェクター(パワーポイント)を利用して進める。また演習問題は宿題とすることもある。				
授業概要	アルゴリズムを組み立てるということは、プログラミングに限らず、種々の問題解決において非常に重要である。本講義は、アルゴリズムを構築するための基礎的な学力を身につけることを目的とする。				
到達目標	本講義は、いくつかの基本的なアルゴリズムおよび様々なデータの構造を通して、アルゴリズムを理解する能力、アルゴリズムを組み立てる能力、効率的に扱う能力、ものごとを論理的に考える能力、の獲得を到達目標とする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	アルゴリズムとは	アルゴリズムとはいかなるものか、その定義の説明、および簡単なアルゴリズムの作成を行う。		
	2	プログラムの構造化設計	構造化プログラミングとは何か、また構造化を行う目的とその効果、および制御構造との関連について学ぶ。		
	3	制御構造	基本制御構造(順次構造、選択構造、反復構造)を利用することの効果や利点、および制御構造における論理の流れと記述の仕方について学ぶ。		
	4	流れ図と構造化	流れ図におけるデータ記号、処理記号、線記号、特殊記号の意味とその記述方法、および構造化との関連について学ぶ。		
	5	データ型	各種データ型(整数型、実数型、文字型、文字列型、論理型、配列型、レコード型)とその内部表現、論理演算と関係式、記数法および補数について学ぶ。		
	6	配列	配列とは何か、配列利用のメリットおよび配列データの構造、1次元配列と多次元配列の違いについて学ぶ。配列を使った簡単なアルゴリズムを構築する。		
	7	整列	整列(ソート)とは何か、基本アルゴリズムの紹介とその特徴・効率、および流れ図の作成について学ぶ。		
	8	関数と手続き	関数および手続きの概念、関数あるいは手続きに値を渡すための引数の種類とその特徴、および変数の有効範囲について学ぶ。		

9	再帰	関数の呼び出し方法の一つである再帰呼び出しの考え方とその停止条件および計算量について学ぶ。
10	行列演算	行列表現の利点、応用分野、および行列の演算について学ぶ。逆行列と連立1次方程式の解法アルゴリズムを紹介する。
11	数値計算－1	誤差(オーバーフロー、丸め誤差、桁落ち、情報落ち、打ち切り誤差)の発生理由と評価、および収束判定について学ぶ。
12	数値計算－2	代表的な数値計算アルゴリズムであるマクローリン展開、台形則・シンプソンの公式による数値積分、ニュートン法による方程式の解法について解説する。
13	文字列処理	文字列の照合と検索、文字列の中から指定した文字列を見つけ出す手順とその効率について学ぶ。
14	図形処理	2次元および3次元の座標データに関する、平行移動、拡大・縮小、直交座標から極座標への変換、回転の1次変換のアルゴリズム、および鳥瞰図表示について学ぶ。
15	まとめ	本講義で学習したさまざまな事項についてのまとめ、復習、および理解度の確認を行う。
16	期末試験	
テキスト	毎回資料を配付する。	
参考書	さまざまな書籍が出版されているので、自分にあったものを見つけることを希望する。	
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)	

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	アルゴリズム				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	本講義では毎回演習を交えながら講義をすすめる。そうすることで理解度の向上を狙う。また、演習結果については成績評価にも用いるため講義終了後にかならず提出すること。				
授業概要	良いプログラムは分かりやすく、実行時間・効率も高い。このようなプログラムを書くためにはデータ構造とアルゴリズムを理解しておく必要がある。本講義ではそのための各種アルゴリズムや考え方等について学ぶ。				
到達目標	何種類ものアルゴリズムの中から目的にあったアルゴリズムを選択できるようになること。そして、そのアルゴリズムを効率よく実現するために適切なデータ構造を選択できるようになること。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	アルゴリズムとは	良いプログラムを作るには適切なアルゴリズムを用いることが不可欠である。アルゴリズムの必要性について理解する。		
	2	アルゴリズムの計算量	アルゴリズムの良し悪しを決める計算量について学習する。またオーダー記法 $O(f(n))$ についても学ぶ。		
	3	データ構造とは、基本的なデータ構造	データ構造の必要性および、リストなどの基本的なデータ構造について学習する。		
	4	スタック、キュー	リストの代表的な操作方法であるスタック、キューについて学習する。		
	5	連結リスト	リストの表現方法の1つである連結リストについて学習する。		
	6	循環リスト、双方向リスト	連結リストの種類である循環リストと双方向リストについて学習する。		
	7	木構造、二分木	リストに次いでよく用いられるデータ構造である木について学習する。		
	8	探索アルゴリズム	最も頻繁に行われる操作の1つである探索アルゴリズムについて学習する。		
	9	ハッシュ	探索アルゴリズムの一種であるハッシュ法を用いた探索について学習する。		
	10	二分探索木	挿入、削除、検索、最小値の操作を効率良く実現できるデータ構造である二分探索木について学習する。		
11	平衡探索木	二分探索木の発展形である平衡探索木について学習する。その中でもAVL木について学ぶ。			

	12	整列アルゴリズム	整列のアルゴリズムについて、バブルソート、選択ソート、挿入ソートという単純な整列アルゴリズムを例にとり学習する。
	13	シェルソート	挿入ソートを改良した整列アルゴリズムであるシェルソートについて学習する。
	14	クイックソート	内部整列で最高速のアルゴリズムであるクイックソートについて学習する。
	15	まとめ	これまでに学習してきた多くのアルゴリズム・データ構造の中で重要なものについて復習する。
	16	期末試験	
テキスト	近藤嘉雪著「定本Javaプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」(SBクリエイティブ)		
参考書	茨木俊秀著「Cによるアルゴリズムとデータ構造」(オーム社) 柴田望洋著「新・明解 Javaで学ぶアルゴリズムとデータ構造」(SBクリエイティブ)		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	オブジェクト指向理論				
教員氏名	藤井 文一郎	実務経験者			
授業の方法	<p>講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習時や講義時はノートを取るなど、手を動かして学習すること。 2. 何事もまずは自ら考える習慣をつけるようにすること。 3. 理解の難しい部分は積極的に質問するなどして解決するように努めること。 				
授業概要	<p>本講義では主としてソフトウェア開発手法におけるオブジェクト指向の考え方を学びます。講義ではプログラミング言語や日常的な事象を題材に解説を行い、さらに実際に手を動かして設計しながら理解を深めていきます。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. オブジェクト指向の概念を理解して活用することができる。 2. いくつかの事例を通してオブジェクト指向の考え方を理解できる。 3. オブジェクト指向を用いた開発にかかわる設計ツールを理解して利用できる。 				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明し、全体計画を把握する		
	2	開発手法を理解する	主なソフトウェア開発手法を理解する		
	3	オブジェクト指向の概要	オブジェクト指向の考え方、特徴、構成要素などを学ぶ		
	4	オブジェクト指向プログラミング(1)	プログラム開発におけるオブジェクト指向の考え方を事例を用いて学ぶ(その1)		
	5	オブジェクト指向プログラミング(2)	プログラム開発におけるオブジェクト指向の考え方を事例を用いて学ぶ(その2)		
	6	ビジネス活動を記録する	ビジネスアプリケーションを前提としたモデリングのレッスンを行う		
	7	一連のビジネス活動を記録する	一連のイベントを概念モデルとして表現する方法を学ぶ		
	8	永続的な関係を表現する	比較的長期間に渡る関係の表現を学習する		
	9	複雑な構造を表現する	複雑な構造を表現するモデリングについて学習する		
10	将来の仕様変更に備える	将来の仕様変更に対応するためのテクニックを学ぶ			

	11	現在・過去・未来を表現する	時間の経過にまたがって管理する情報を表現する方法を学ぶ
	12	パターンを使って概念モデルを組み上げる	パターンを使ってひとまとまりの概念モデルを作成し学習する
	13	ERモデリングレッスン	関係データベースの設計で利用されるER図を使ったモデリングを学習する
	14	ロジカルシンキング	複雑な物事を整理するための「汎用の整理術」としての利用方法を学ぶ
	15	まとめ	これまでの内容について総括を行い、全体を通じた理解度を確認する
	16	期末試験	
テキスト	指定なし		
参考書	指定なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	オブジェクト指向理論				
教員氏名	藤井 文一郎	実務経験者			
授業の方法	講義・演習 1. 予習時や講義時はノートを取るなど、手を動かして学習すること。 2. 何事もまずは自ら考える習慣をつけるようにすること。 3. 理解の難しい部分は積極的に質問するなどして解決するように努めること。				
授業概要	Java言語の基礎を習得するとともに、オブジェクト指向プログラミングの基本的概念と考え方を学ぶ。この授業は、Java言語の初歩から初めて一通りのプログラム作りができるまでを学ぶ流れと、クラス、メソッド、継承、ポリモーフィズムなどオブジェクト指向機能から初めて実際のプログラミングを学ぶ流れの2つから構成される。				
到達目標	1 javaで基本的なプログラムを作成することができる。 2 オブジェクト指向とは何かについて、その概念を述べることができる。 3 クラス、メソッド、継承などのオブジェクト指向特有の言葉について説明ができる。 4 クラス、メソッド、継承などオブジェクト指向特有の内容を実際に使いこなすことができる。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	導入(Java言語とは、オブジェクト指向とは、授業のすすめかた)	受講計画をたてる		
	2	Javaの基礎 I (1)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	3	Javaの基礎 I (2)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	4	Javaの基礎 I (3)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	5	オブジェクト指向の基礎 I (1)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	6	オブジェクト指向の基礎 I (2)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	7	オブジェクト指向の基礎 I (3)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	8	Javaの基礎 II (1)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
	9	Javaの基礎 II (2)	授業内容の復習 課題プログラムの作成		
10	Javaの基礎 II (3)	授業内容の復習 課題プログラムの作成			

	11	オブジェクト指向の基礎Ⅱ(1) 応用プログラムの作成	応用プログラムV1の作成
	12	オブジェクト指向の基礎Ⅱ(2) 応用プログラムの作成	応用プログラムV2の作成
	13	オブジェクト指向の基礎Ⅱ(3) 応用プログラムの作成	応用プログラムV3の作成
	14	オブジェクト指向の基礎Ⅱ(4) 応用プログラムの作成	応用プログラムV4の作成
	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめ、理解度の確認を行う
	16	期末試験	
テキスト	指定なし		
参考書	指定なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	コンパイラの理論と実現				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ プログラミング言語は作成するソフトウェアシステムの特性や目的に応じて開発されてきました。 CやFortranに代表される古典的なコンパイル言語からJavaなどのスクリプト系言語まで様々です。 本授業では、コンピュータの基本的な動作を理解した上でコンパイラの役割と処理を学びます。</p> <p>②授業の内容 Excel VBAを使って、仮想コンピュータを実装します。 前期では簡単な機械語とプログラム言語を設計して、コンパイラが処理すべき言語を確定します。</p> <p>③事前準備学修 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 この授業では「ソフトウェア工学」で学んでいることを具体的に実践しています。関係性の理解に努めてください。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語としてのVBAの目的と役割を理解し、Excelマクロを作成できるようになる ・機械語の基本的コマンドセットを理解して仮想コンピュータ用の機械語を設計する ・目的に応じたプログラム言語の意味を理解して簡単なプログラム言語を設計する ・コンパイラの処理を実装するための基礎知識として順序機械(オートマトン)を学習します。 				
	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	チュートリアル	コンピュータの定義 コンピュータの動き プログラミング言語の種類 コンパイラとインタプリタ 部分コンパイルとリンク ※演習チームアサイン		
	2	仮想機械語の設計1	演算と制御 命令語 記憶領域 アセンブラ言語仕様書の作成演習(チーム)		
	3	仮想機械語の設計2	アセンブラ言語仕様書のプレゼン(チーム) アセンブラ言語仕様書の見直し演習(チーム)		
	4	仮想コンピュータの実装1	VBAの導入 VBA演習		
	5	仮想コンピュータの実装2	仮想コンピュータの設計 仮想コンピュータの設計(チーム)		

授業計画 (30h)	6	仮想コンピュータの実装3	仮想コンピュータの実装(チーム)	
	7	仮想コンピュータの実装4	仮想コンピュータの実装(チーム)	
	8	言語設計1	アルゴリズム 方程式の解を求めるアルゴリズム	
	9	言語設計2	アルゴリズムを実現する言語設計	
	10	言語設計3	アルゴリズムを実現する言語設計(チーム) 言語仕様書作成(チーム)	
	11	言語設計4	言語仕様書プレゼン(チーム) 言語仕様書見直し(チーム)	
	12	言語設計5	方程式の解を求めるプログラム	
	13	字句解析理論	コンパイラの処理手順1 字句解析の意味と方法	
	14	構文解析理論	コンパイラの処理手順2 構文解析の意味と方法	
	15	オートマトン1	順序機械 状態遷移図の導入と演習	
	16	期末試験		
	テキスト	特になし ※資料を配布		
	参考書	特になし		
	評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	コンパイラの理論と実現				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ プログラミング言語は作成するソフトウェアシステムの特性や目的に応じて開発されてきました。 CやFortranに代表される古典的なコンパイル言語からJavaなどのスクリプト系言語まで様々です。 本授業では、コンピュータの基本的な動作を理解した上でコンパイラの役割と処理を学びます。</p> <p>②授業の内容 Excel VBAを使って、コンパイラを実装します。 前期で設計したプログラム言語で方程式の解を求めるプログラムを作成し、これをコンパイルして仮想コンピュータで動作させるところまでを授業の達成目標とします。</p> <p>③事前準備学修 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 この授業では「ソフトウェア工学」で学んでいることを具体的に実践しています。関係性の理解に努めてください。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前期で設計したプログラム言語を仮想コンピュータ用の機械語に変換する処理をVBAで実装する(コンパイラの作成) ・方程式を解くアルゴリズムを理解して設計したプログラム言語でコーディングする ・コーディングしたプログラムを実装したコンパイラで機械語に変換する ・変換した機械語を仮想コンピュータ上で実行する <p>前期後期を通じてコンパイラの意味と処理方法を学び、加えてVBAによるプログラミング技術を習得します。</p>				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	オートマトン2	状態遷移型プログラミング 状態遷移型プログラミング演習		
	2	オートマトン3	状態遷移型プログラミング演習		
	3	字句解析実装1	予約語とデリミッタ 字句解析の状態遷移演習		
	4	字句解析実装2	字句解析中間コードの意味 字句解析中間コードの設計演習		
	5	字句解析実装3	字句解析プログラミング演習		
	6	字句解析実装4	字句解析プログラミング演習		
	7	構文解析実装1	二分木 構文解析の状態遷移演習		
8	構文解析実装2	構文解析中間コードの意味 構文解析中間コードの設計演習			

	9	構文解析実装3	構文解析プログラミング演習
	10	構文解析実装4	構文解析プログラミング演習
	11	最適化	最適化の意味 仮想コンピュータ上での効果
	12	最適化実装1	最適化中間コードの意味 最適化中間コードの設計演習
	13	最適化実装2	最適化プログラミング演習
	14	コンパイルと実行1	課題プログラムのコンパイル演習
	15	コンパイルと実行2	実行形式の動作演習
	16	期末試験	
テキスト	特になし ※資料を配布		
参考書	特になし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	60時間
科目	システム構築演習(Java)				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	演習				
授業概要	<p>Javaやデータベース、分析・設計などの知識を実践する総合演習として、JavaのWebアプリケーションを開発します。</p> <p>数名で1つのグループを構成し、ヒアリング・要件定義から分析・設計・実装・テストを行うことで、システム開発を行うための一連の流れを実践演習形式で講義を行う。</p> <p>授業は演習室にて行う。</p> <p>環境構築に使用したファイルや演習ファイルをお持ち帰りいただくことができる。</p> <p>ご受講の際にUSBメモリなどをお持ちいただく。</p>				
到達目標	本講義の演習を通して、システム構築に関連する諸技術の理解を深め、身につけることができる。				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・演習の流れについて説明 ・グループを分ける ・テーマを選択 		
	2	課題内容把握	・チーム内で選択した課題内容を把握		
	3	作業計画策定	・チーム内の役割分担を決定		
	4	中間発表①	・チーム内の作業計画を発表		
	5	要求仕様書の作成①	・要件定義工程の成果物を作成する		
	6	要求仕様書の作成②			
	7	要求仕様書の作成③			
	8	中間発表②	・チーム内の要求仕様について発表		
	9	システム設計書の作成①	・設計工程の成果物を作成する		
	10	システム設計書の作成②			
	11	システム設計書の作成③			
	12	システム設計書の作成④			
	13	システム設計書の作成⑤			
	14	システム設計書の作成⑥			
15	中間発表③	・チーム内のシステム設計について発表			
テキスト	指定しない				
参考書	<p>【参考書】</p> <p>スッキリわかる サーブレット&JSP入門 著者: 国本 大悟</p> <p>【サイト】</p> <p>Javaの道 http://www.javaroad.jp/index.htm</p>				
評価基準	<p>1.演習結果による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での発表(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	60時間
科目	システム構築演習(Java)				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	演習				
授業概要	<p>Javaやデータベース、分析・設計などの知識を実践する総合演習として、JavaのWebアプリケーションを開発します。</p> <p>数名で1つのグループを構成し、ヒアリング・要件定義から分析・設計・実装・テストを行うことで、システム開発を行うための一連の流れを実践演習形式で講義を行う。</p> <p>授業は演習室にて行う。</p> <p>環境構築に使用したファイルや演習ファイルをお持ち帰りいただくことができる。</p> <p>ご受講の際にUSBメモリなどをお持ちいただく。</p>				
到達目標	本講義の演習を通して、システム構築に関連する諸技術の理解を深め、身につけることができる。				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	プログラミング①	<ul style="list-style-type: none"> ・システム設計書の通りプログラムを開発 ・中間発表 		
	2	プログラミング②			
	3	プログラミング③			
	4	プログラミング④			
	5	プログラミング⑤			
	6	プログラミング⑥			
	7	プログラミング⑦			
	8	プログラミング⑧			
	9	テスト①	<ul style="list-style-type: none"> ・設計仕様通りになっているかのプログラムのテスト 		
	10	テスト②			
	11	テスト③			
	12	テスト④			
	13	発表会①	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に成果物を発表 		
	14	発表会②			
15	発表会③				
テキスト	指定しない				
参考書	<p>【参考書】</p> <p>スッキリわかる サーブレット&JSP入門</p> <p>著者：国本 大悟</p> <p>【サイト】</p> <p>Javaの道 http://www.javaroad.jp/index.htm</p>				
評価基準	<p>1.演習結果による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での発表(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ソフトウェア工学の基礎				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ ソフトウェア開発における基礎となる ・ソフトウェア開発プロセス ・要求分析と仕様の作成 ・ソフトウェア設計、レビュー、テスト ・プロジェクト管理 など技術について、基本的な知識を習得する。</p> <p>②授業の内容 「コンパイラの基礎と実現」で制作するExcel VBAを使ったコンパイラの実装を本授業におけるプロジェクト管理の実務対象とします。 コンパイラ制作が高品質で完成されることを本授業の達成目標とします。</p> <p>③事前準備学修 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 この授業では「コンパイラの基礎と実現」で進めていることをプロジェクト管理の側面から捉えていきます。関係性の理解に努めてください。</p>				
到達目標	<p>「コンパイラの基礎と実現」で進めるコンパイラ制作が高品質で完成されることを本授業の達成目標とします。</p> <p>前期後期を通じてプロジェクト管理の意味と具体的技法を学びプログラミング技術を習得します。</p>				
授業計画 (30h)		時限ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ソフトウェア工学の基本紹介	ソフトウェア工学の範囲、歴史、目的等		
	2	ソフトウェア開発プロセス(1)	ウォーターフォールモデル、反復型モデル		
	3	ソフトウェア開発プロセス(2)	アジャイル開発モデル		
	4	要求分析の概要と手法(1)	要求獲得、要求分析、要件定義の基本的な手法。UML-ユースケース図演習。		
	5	要求分析の概要と手法(2)			
	6	要求分析の概要と手法(3)			
	7	要求分析の概要と手法(4)			
	8	要求仕様記述手法(1)	要求仕様書の作成演習。		
	9	要求仕様記述手法(2)			
	10	要求仕様記述手法(3)			
	11	要求仕様記述手法(4)	設計仕様書の作成演習。		
	12	設計仕様記述手法(1)			
	13	設計仕様記述手法(2)			
	14	設計仕様記述手法(3)			
	15	設計仕様記述手法(4)			
16	期末試験				
テキスト	特になし ※資料を配布				
参考書	特になし				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ソフトウェア工学の基礎				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ ソフトウェア開発における基礎となる ・ソフトウェア開発プロセス ・要求分析と仕様の作成 ・ソフトウェア設計、レビュー、テスト ・プロジェクト管理 など技術について、基本的な知識を習得する。</p> <p>②授業の内容 「コンパイラの基礎と実現」で制作するExcel VBAを使ったコンパイラの実装を本授業におけるプロジェクト管理の実務対象とします。 コンパイラの実装が高品質で完成されることを本授業の達成目標とします。</p> <p>③事前準備学修 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 この授業では「コンパイラの基礎と実現」を進めていることをプロジェクト管理の側面から捉えていきます。関係性の理解に努めてください。</p>				
到達目標	<p>「コンパイラの基礎と実現」を進めるコンパイラの実装が高品質で完成されることを本授業の達成目標とします。</p> <p>前期後期を通じてプロジェクト管理の意味と具体的技法を学びプログラミング技術を習得します。</p>				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ソフトウェア実装手法(1)	ソフトウェア仕様からプログラムの実装演習 (チーム)		
	2	ソフトウェア実装手法(2)			
	3	ソフトウェア実装手法(3)			
	4	ソフトウェア実装手法(4)			
	5	品質管理とレビュー手法(1)	品質管理の基本概念と具体的なレビュー手法の演習 (チーム)		
	6	品質管理とレビュー手法(2)			
	7	品質管理とレビュー手法(3)			
	8	品質管理とレビュー手法(4)			
	9	品質管理とレビュー手法(5)			
	10	品質管理とレビュー手法(6)			
	11	ソフトウェア管理(1)	ソフトウェア管理についての基本概念と具体的な手法演習 (チーム)		
	12	ソフトウェア管理(2)			
	13	ソフトウェア管理(3)			
	14	ソフトウェア管理(4)			
	15	ソフトウェア管理(5)			
16	期末試験				
テキスト	特になし ※資料を配布				
参考書	特になし				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	i年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	データベース・システムの原理				
教員氏名	藤井 文一郎	実務経験者			
授業の方法	講義を中心に説明を進めていきますが、適宜演習を含めて実際のデータベースを操作して体験的に理解することも行います。				
授業概要	データベースは大量のデータを管理し、容易に検索や更新するために必要不可欠な技術・ソフトウェアです。IT 技術の発展等により、このデータベースの重要性は非常に高くなっています。 本講義の目的は、データベースマネジメントシステム(DBMS)の仕組みや基本的概念、その操作方法等について学び、データベースがどのように我々の暮らしに役に立っているかを理解することです。				
到達目標	SQL (Structured Query Language) について説明し、演習を通じてSQL によるデータ操作技法の習得を目指します。また、Java 等のプログラミング言語からのデータベースの利用や、NoSQL データベースへの理解を通して、社会でデータベースがどのように利用されているかや、今後どのような応用が可能かを考えることのできる知識や理解の獲得を目指します。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	データベースの概念	データベースの仕組み、動作理解のための基礎知識を学びます。また、いくつかのOSS データベースについて、入手方法や導入方法について解説します。		
	2	リレーショナルデータベースとSQL の概要	リレーショナルデータベースの紹介とデータベースの定義や操作を行うための言語であるSQL の概要について学びます。		
	3	データ検索とソート	SELECT文を利用したデータの検索方法と検索結果の並び替えの方法について学びます。		
	4	単一行関数	集合に基づく単一行結果を返す関数の種類とその内容、使用方法について学びます。		
	5	グループ関数	集合に基づく、複数行を返す可能性のある関数の種類とその内容、使用方法について学びます。		
	6	副問い合わせ (I)	SQL文内に組み込まれた問い合わせを使用して問題を解決する方法と、基本構文を学びます。		
	7	副問い合わせ (II)	副問い合わせないでのグループ関数の使用方法や、複数行副問い合わせの使用法を学びます。		
	8	データ操作文 (DML)	表への新規行の追加や、表中のデータ更新などの方法を学びます。		
	9	データ定義文 (DDL)	表の作成および管理について学びます。また、制約やビューの作成方法についても学びます。		
	10	安全性と信頼性制御	トランザクション制御や、表、行のロックの仕組みについて学びます。		
11	パフォーマンスチューニング	データベースを効率よく使用するための方法について学びます。			

	12	リレーショナルデータベース管理システム以外のデータベース管理システム	NoSQL(Not only SQL)系データベースについて学習します。
	13	MongoDB	NoSQL系データベースの一つであるMongoDBを取り上げ、その特徴や使い方を学びます。
	14	データベースとプログラム	Java(JDBC)やJavaScriptを利用したデータベースを用いるプログラミングについて学習します。
	15	まとめ	これまでの講義内容の総括を行い、理解度の確認を行います。
	16	期末試験	
テキスト	改訂第3版 すらすらと手が動くようになる SQL 書き方ドリル、羽生 章洋、和田 省二、菅井 大輔 著、技術評論社		
参考書	SQL 関係の書籍を購入することをお勧めします。		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	データベース・システムの原理				
教員氏名	藤井 文一郎	実務経験者			
授業の方法	まず前半は講義を通してデータベースの基礎概念を習得する。次に机上の演習を行い、その後PCでデータベース作成演習(実習)を通じてデータベースの利活用に必要な知識と基本技術を習得することを目指す。				
授業概要	商業活動の様々な場面でデータの収集・蓄積が敢行され、それらを高度に活用する経営情報管理場面ではデータベースの管理・運営が必要不可欠となっている。本講義ではデータベースの基本を座学で学び、データベースの基本機構や処理の実態を議論する。小テスト、レポートを通じて理解度を確認しながら情報処理技術の基本知識を習得する。				
到達目標	①データベースの歴史的展開から現状の商業活動におけるデータベースの意義を説明できること。 ②データ設計、管理手法が理解でき、テーブルの正規化が行えること。 ③SQLを習得できていること。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	イントロダクションと序論	講義の進め方などを設定し、講義の意味合いを議論する。情報形成とデータベースの歴史を展望し現状のコンピュータシステムでの意義や価値を考える。		
	2	データベースシステム(DB)とは	データベースシステムの定義するとともに社会インフラ、ネットワークシステムにおけるデータベースの役割を考察する。		
	3	DBモデルと情報構造	ファイルとDBについてデータベースシステムの情報管理とファイルでの情報管理を比較するとともに、データを取り扱うのに必要な情報の構造を中心にデータベース構築の問題点を議論する。		
	4	事象の抽象化と情報	現実にかかる様々な事象をデータ化、抽象化する意義と手法を学ぶ。システム化を目指したファイル化を目指す。		
	5	データ構造の定義とDBの構造設計	データをシステムに具現化するためにデータの構造や業務の目的から設計する手法を考察する。		
	6	リレーショナル代数	データモデルを基にデータを代数的概念で取り扱うことを学ぶ。		
	7	マネージメントシステム(DBMS)の役割と機能	データベースシステムの中心的な管理をまかなうDBMSの基本的な機能や役割を学ぶ。		
	8	トランザクションと障害時回復	問題発生時にどのように処理を行うかを考察し、取引からシステム保守に至るまでの流れを考える。		
	9	SQL(1)	DBMSに命令を実行させるにはSQLは欠かせない。SQLの基本機能とデータを取り扱うことに絞って基本文法を学ぶ。データ定義を中心に紹介する。		
10	SQL(2)	第9回に引き続きデータ操作を中心としたSQLの基本文法を学ぶ。			

	11	SQL(3)	第10回に引き続きSQLを学ぶ。複数のテーブルを用いた複雑な情報のつながりから必要なタプルを検索する方法など業務で利用されることの多い場面の解決策を考える。
	12	データベース演習	これまで学んだ文法をプログラムを通じて習得する。データ定義と挿入、変更、検索などをMicrosoft ACCESSで演習する。
	13	データベース演習(2)	これまで学んだ文法をDBMSを通じて習得する。代数演算、副問い合わせ、ビュー表作成などをACCESS2013で実現する。
	14	データベース演習(3)	これまで学んだことを実践することを目的に演習を行う。売上管理、商品管理、顧客管理、宿泊者管理などの具体的データベースを基本設計から作り上げる。
	15	まとめ	これまで学んだことを振り返り、企業や社会におけるDBの役割俯瞰して、全体のまとめを行う。
	16	期末試験	
テキスト	講義中に指示する。		
参考書	講義中に指示する。		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	データベース演習				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義、演習(必要に応じ演習室を使う場合もあり)				
授業概要	<p>【授業のテーマ】 Oracle Databaseによるデータベースの構築と運用</p> <p>【授業の内容】 第1回目では授業計画、授業方法、評価方法等についてガイダンスを行う。 第2回目以降は、データベースを操作するための言語であるSQLについて、実際にデータベースにアクセスして演習を通じて学ぶ。最後に、ビジネスの業務分析から、データベース設計、データベース活用を演習します。</p> <p>【備考】 ・各自のPCを持参すること。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース管理システムの機能と概要が理解できること。 ・データベース共通言語SQLの基礎文法を理解し、使用できること。 ・小規模なデータベース構築が実践できるようになること。 ・最終的にはORACLE MASTER Bronze DBA10g以降の資格試験に合格することを目指す。 				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ガイダンス	この授業の内容や、授業の進め方、そして評価方法等についての説明		
	2	データベースの概要	リレーショナルデータベースとは何か		
	3	SELECT文によるデータの検索	基本的なSELECT文、算術式とNULL値、リテラル文字列について		
	4	データの制限とソート(並び替え)	WHERE句の使用した条件式、ORDER BY句を使用したソート		
	5	単一行関数①	文字関数、数値関数、そして日付関数について		
	6	単一行関数②	データ型の変換と一般関数および条件式について		
	7	グループ関数①	グループ関数のタイプと構文、GROUP BY句の使用について		
	8	グループ関数②	HAVING句の使用について		
	9	表の結合①	結合のタイプ(含SQL:1999構文)、自然結合とUSING句の使用した表の結合について 自己結合とON句の使用した表の結合について		
	10	表の結合②	非等価結合、外部結合と内部結合、デカルト積について		
11	副問合せと集合演算子	副問合せと集合演算子について			

12	DML文とデータの操作①	INSERT文とデータの追加、UPDATE文とデータの更新、DELETE文とデータの削除について
13	DML文とデータの操作②	TRUNCATE文とデータの切捨て、コミットとロールバック、読取り一貫性について
14	これまでのまとめ	これまでの復習・解説を行い授業の理解を深める。 前期最終テストについて説明
15	前期最終課題	
テキスト	使用しない、必要に応じて印刷物を配る。	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース・ソフトウェアを含め、日本オラクル社のOracle Academy提供の教材を無償配付する。 ・データベースの管理・運用に関する練習問題を提供する。 ・SQL 入門 - オラクル・Oracle SQL 入門 https://www.shift-the-oracle.com/sql/ 	
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1.最終課題による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%) 	

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	データベース演習				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義、演習(必要に応じ演習室を使う場合もあり)				
授業概要	<p>【授業のテーマ】 Oracle Databaseによるデータベースの構築と運用</p> <p>【授業の内容】 第1回目では授業計画、授業方法、評価方法等についてガイダンスを行う。 第2回目以降は、データベースを操作するための言語であるSQLについて、実際にデータベースにアクセスして演習を通じて学ぶ。最後に、ビジネスの業務分析から、データベース設計、データベース活用を演習します。</p> <p>【備考】 ・各自のPCを持参すること。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース管理システムの機能と概要が理解できること。 ・データベース共通言語SQLの基礎文法を理解し、使用できること。 ・小規模なデータベース構築が実践できるようになること。 ・最終的にはORACLE MASTER Bronze DBA10g以降の資格試験に合格することを目指す。 				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	データベースの基本概念	データベース・オブジェクト、スキーマ、そしてデータ・ディクショナリについて		
	2	データベース実行環境の設定	OSの環境設定、データベースのインストールとアンインストール		
	3	Oracleデータベースのアーキテクチャ(1)	インスタンスとデータ記憶域、制御ファイル、そしてREDOログ・ファイルについて		
	4	Oracleデータベースのアーキテクチャ(2)	表領域とデータ・ファイル(セグメント・エクステント・ブロック)、初期化パラメータ・ファイルについて		
	5	データベースの管理	Oracle Enterprise Managerを使ったデータベースの管理		
	6	データベース・オブジェクトの作成と管理(1)	表領域の作成と管理 表の作成、変更、削除(含テーブル制約、列制約指定方法)		
	7	データベース・オブジェクトの作成と管理(2)	その他のデータベース・オブジェクト(ビュー、索引、シノニム、順序)の作成と使用について		
	8	データの管理	SQL*Loaderを使用したデータのロード Data Pumpを使用したデータのインポート・エクスポート		
	9	バックアップとリカバリの概要	データベースにおける障害の分類 インスタンス障害とメディア障害そしてそのリカバリについて		
10	データベース構築・作成課題①	データは「社員情報」データベースの構築			

11	データベース構築・作成課題 ②	データは「社員情報」データベースの構築
12	データベース構築・作成課題 ③	データは「社員情報」データベースの構築
13	データベース構築・作成課題 ④	データは「社員情報」データベースの構築
14	課題発表および提出①	
15	課題発表および提出②	
テキスト	使用しない、必要に応じて印刷物を配る。	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース・ソフトウェアを含め、日本オラクル社のOracle Academy提供の教材を配付する。 ・データベースの管理・運用に関する練習問題を提供する。 ・SQL 入門 - オラクル・Oracle SQL 入門 https://www.shift-the-oracle.com/sql/	
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1.最終課題による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%) 	

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	マイクロソフトオフィス(VBA含む)				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ Excel VBAの仕組みを理解し、数値計算、データの整理、分析するためのプログラミングスキルを身につける</p> <p>②授業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マクロ ・VBA ・変数 ・分岐 ・繰り返し ・基本操作のまとめ <p>③事前準備学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当ページを読み、キーワードとなる専門用語の意味を調べておく ・授業に臨む前に、“Excel VBAでこんなことができるんだ！”と自分でもできるイメージを膨らませておく <p>④事後展開学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、演習を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない 				
到達目標	Excelの機能の1つであるマクロがどんなものであるか正しく理解し、プログラミング言語の1つであるVBAで一通りプログラムが書けるようになる				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ		概要/キーワード	
	1	マクロ(1)		マクロとは？	
	2	マクロ(2)		マクロを使ったシートの自動化	
	3	VBA(1)		VBAとは？	
	4	VBA(2)		VBAの基本構文	
	5	VBA(3)		VBAを使った命令文の作り方	
	6	変数(1)		変数とは？	
	7	変数(2)		変数の基本文法	
	8	変数(3)		変数を使ったプログラム	
	9	分岐(1)		分岐とは？	
	10	分岐(2)		分岐を使ったプログラム(比較演算子)	
	11	分岐(3)		分岐を使ったプログラム(論理演算子)	
	12	繰り返し(1)		繰り返しとは？	
	13	繰り返し(2)		繰り返しを使ったプログラム(For～文)	
	14	繰り返し(3)		繰り返しを使ったプログラム(Do～文)	
	15	基本操作のまとめ		これまでの総合練習問題	
16	期末試験				
テキスト	<p>図解！Excel VBAのツボとコツがゼッタイにわかる本 ～プログラミング実践編～</p> <p>著者：立山 秀利 出版社：秀和システム(2018年11月1日発行) 定価：2160円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	マイクロソフトオフィス(VBA含む)				
教員氏名	南 薫伯	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ Excel VBAの仕組みを理解し、数値計算、データの整理、分析するためのプログラミングスキルを身につける</p> <p>②授業の内容 サンプル『予約表』を使って、以下の処理の仕方を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートの自動作成 ・シートのコピーと移動 ・データの転記 ・セルの操作 ・エラー処理 ・関数の利用 ・これまでの処理のまとめ <p>③事前準備学修 ・テキストの該当ページを読み、キーワードとなる専門用語の意味を調べておく ・授業に臨む前に、“Excel VBAでこんなことができるんだ！”と自分でもできるイメージを膨らませておく</p> <p>④事後展開学修 ・実習、演習を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない</p>				
到達目標	『予約表』をサンプルに、Excel VBAで自動計算、データの整理、分析を行うための一連のプログラム、マクロを組むことができる				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	自動作成(1)	予約表の作成		
	2	自動作成(2)	名簿の作成		
	3	シートのコピーと移動(1)	シートのコピーのしかた		
	4	シートのコピーと移動(2)	シートの移動のしかた		
	5	データの転記と抽出(1)	データの転記のしかた		
	6	データの転記と抽出(2)	データの抽出のしかた		
	7	セルの操作(1)	オブジェクト“Range”を使った操作		
	8	セルの操作(2)	オブジェクト“Cells”を使った操作		
	9	エラー処理(1)	デバック機能を使った処理		
	10	エラー処理(2)	その他の方法での処理		
	11	関数の利用(1)	文字列操作に関するもの		
	12	関数の利用(2)	データ判定に関するもの		
	13	関数の利用(3)	日付・時刻に関するもの		
	14	関数の利用(4)	配列に関するもの		
	15	処理のまとめ	これまでの総合練習問題		
	16	期末試験			
テキスト	<p>図解！Excel VBAのツボとコツがゼッタイにわかる本 ～プログラミング実践編～ 著者：立山 秀利 出版社：秀和システム(2018年11月1日発行) 定価：2160円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	45時間
科目	AI(人工知能の基礎)				
教員氏名	飯箸 泰宏				
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ 人工知能のベースとなる機械学習について、昨今の応用例を題材にその役割と処理方法を学びます。</p> <p>②授業の内容 グループごとに輪講します。 テーマは予めきめますが、議論の進捗によっては適宜テーマを絞ります。 基本は参考書(後述)に沿って進めます。</p> <p>③事前準備学修 輪講の担当グループは予め参考書を精読しておくこと。</p> <p>④事後展開学修 授業ごとに現れた議論のポイントと課題に対して、担当グループで整理まとめておくこと。</p>				
到達目標	前期後期を通じて人工知能における機械学習の意味と処理方法を学びます。具体化の手段としてPythonについても補足的に習得します。				
授業計画 (45h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	チュートリアル(1)	機械学習とは		
	2	チュートリアル(2)	Pythonと機械学習		
	3	機械学習の様々な側面(1)	機械学習をとりまく環境		
	4	機械学習の様々な側面(2)	機械学習の関連分野		
	5	機械学習の様々な側面(3)	学習法による分類		
	6	機械学習の様々な側面(4)	手法や課題設定による分類		
	7	機械学習の様々な側面(5)	応用例		
	8	基礎1-分類問題(1)	分類問題とは		
	9	基礎1-分類問題(2)	最初の分類器		
	10	基礎1-分類問題(3)	学習データとテストデータ		
	11	基礎1-分類問題(4)	分類器の性能評価		
	12	基礎2-回帰問題(1)	回帰問題とその分類		
	13	基礎2-回帰問題(2)	最小二乗法と評価方法		
	14	基礎2-回帰問題(3)	機械学習における課題		
	15	基礎2-回帰問題(4)	過学習への対応		
	16	期末試験			
テキスト	特になし ※資料を配布				
参考書	書名:Pythonによる機械学習入門 著者:株式会社システム計画研究所 編 出版社:オーム社				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	45時間
科目	AI(人工知能の基礎)				
教員氏名	飯箸 泰宏				
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ 人工知能のベースとなる機械学習について、昨今の応用例を題材にその役割と処理方法を学びます。</p> <p>②授業の内容 グループごとに輪講します。 テーマは予めきますが、議論の進捗によっては適宜テーマを絞ります。 基本は参考書(後述)に沿って進めます。</p> <p>③事前準備学修 輪講の担当グループは予め参考書を精読しておくこと。</p> <p>④事後展開学修 授業ごとに現れた議論のポイントと課題に対して、担当グループで整理まとめておくこと。</p>				
到達目標	前期後期を通じて人工知能における機械学習の意味と処理方法を学びます。具体化の手段としてPythonについても補足的に習得します。				
授業計画 (45h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	基礎3-クラスタリング(1)	クラスタリング		
	2	基礎3-クラスタリング(2)	代表的なクラスタリング手法		
	3	基礎3-クラスタリング(3)	その他のクラスタリング手法		
	4	画像による手形状分類(1)	課題設定		
	5	画像による手形状分類(2)	最初の学習		
	6	画像による手形状分類(3)	汎化性能を求めて		
	7	画像による手形状分類(4)	人数を増やしてみる		
	8	画像による手形状分類(5)	データの精査と洗浄		
	9	画像による手形状分類(6)	特徴量の導入		
	10	画像による手形状分類(7)	パラメータチューニング		
	11	センサデータによる回帰問題(1)	課題設定		
	12	センサデータによる回帰問題(2)	準備		
	13	センサデータによる回帰問題(3)	センサデータの概要		
	14	センサデータによる回帰問題(4)	高松の気温データと四国電力の消費量		
	15	まとめ	まとめ		
16	期末試験				
テキスト	特になし ※資料を配布				
参考書	書名:Pythonによる機械学習入門 著者:株式会社システム計画研究所 編 出版社:オーム社				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	60時間
科目	Android設計(モバイルアプリ)				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	講義を中心に説明を行います。演習を含めて理解を深めます。				
授業概要	近年、情報機器の小型化、高性能化や情報通信インフラの多様化・高度化が急速に進みつつある。特に移動体通信技術の発展は、可搬・移動型情報機器の性能向上と相まって、移動中や外出先で計算機を利用するモバイルコンピューティングの本格的な普及へとつながってきた。モバイルコンピューティングは、情報処理技術と通信技術を効果的に融合させたものであり、将来の高度情報化社会を推進する手段として大きな期待が寄せられている。本講義では、モバイルコンピューティングに関する要素技術・関連技術や様々な応用事例について幅広く学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイルコンピューティングに関する歴史を概観できる。 ・モバイルに関連する要素技術について説明できる。 ・携帯電話向けの簡単なプログラムが理解・作成できる。 ・サーバ・クライアント型システムについて説明できる。 ・サーバとクライアントを連携させたプログラムについて理解できる。 				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	イントロダクション	モバイルコンピューティングとは		
	2	モバイルとユビキタス	モバイルコンピューティング、ユビキタスコン		
	3	モバイルコンピューティングの歴史	携帯電話の歩み、移動体通信の動向		
	4	要素技術・関連技術(1)	携帯電話の通信、ネットワーク制御、モバイル		
	5	要素技術・関連技術(2)	センシング技術		
	6	モバイルコンピューティングの応用(1)	ヒューマンインタフェース		
	7	要素技術・関連技術(3)	位置検出技術、測位方式		
	8	モバイルコンピューティングの応用(2)	AR/MR/DR		
	9	モバイルコンピューティングの応用(3)	高度交通システム(ITS)		
	10	要素技術・関連技術(4)	位置合わせ、トラッキング、ローカライゼーショ		
	11	モバイル・プログラミング(1)	モバイルでのプログラミング開発環境		
	12	モバイル・プログラミング(2)	基本プログラミング		
	13	モバイル・プログラミング(3)	応用プログラミング		
	14	最新の研究・技術動向	産業応用、エンターテインメント応用等		
	15	まとめ	授業のまとめ		
16	期末試験				

テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	<p> モバイルコンピューティング教科書 後藤敏／阪田史郎 監修 アスキー出版社 モバイルGIS モバイルGIS・ナビゲーション研究会 オーム社 モバイルコンピューティング 塚本昌彦 岩波書店 ユビキタス・コンピュータ革命 坂村健 角川書店 携帯電話はなぜつながるのか 第2版 中嶋信生／有田武美／樋口健一 日経BP社 やさしいiOSプログラミング 高橋麻奈 ソフトバンククリエイティブ JavaからはじめようAndroidプログラミング 大津真 インプレス </p>
評価基準	<p> 1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%) </p>

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	60時間
科目	Android設計(モバイルアプリ)				
教員氏名	焦 岩				
授業の方法	毎回講義の前半は諸概念やAPI、開発手法等についての講義を行い、後半はそれらに関するプログラム開発実習に充てる。				
授業概要	本演習では、モバイルアプリケーションの設計、開発、デバッグ、デプロイメントについて学ぶ。具体的には、モバイルUIフレームワーク、ネットワーキング、位置情報、センサ、グラフィックスおよびセキュリティ等のトピックを扱う。				
到達目標	Androidアプリケーションの設計、実装、デバッグ、デプロイメントができるようになること。				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	演習の説明・開発環境の準備	各自のPC上に開発環境の準備を行う		
	2	プログラム開発と実行・デバッグ	プログラム開発と実行・デバッグ方法について理解する		
	3	Android API概観	Android OSおよびAndroid APIの概要を理解する		
	4	UIフレームワーク(1):概要	UIフレームワークの概要について理解する		
	5	UIフレームワーク(2):UIの構造と実現方式	UIの構造と実現方式について理解する		
	6	ネットワーク(1):HTTP、JSON、Websocket等	HTTP、JSON、Websocket等に関する諸概念および関連APIの使用方法を理解する		
	7	ネットワーク(2):Bluetooth、Wifi	BluetoothやWifi等に関する諸概念および関連APIの使用方法を理解する		
	8	位置情報・センサ等の利用(1):センサー	センサーに関する諸概念および関連APIの利用方法を理解する		
	9	位置情報・センサ等の利用(2):位置情報API	位置情報APIに関する諸概念および利用方法を理解する		
	10	Google APIの利用(1):Maps	Google Maps APIに関する諸概念および利用方法を理解する		
	11	Google APIの利用(2):クラウドAPI	クラウドAPIに関する諸概念および利用方法を理解する		
	12	グラフィックスAPI(1):グラフィックスの基本	2D、3Dグラフィックスの基本と関連APIについて理解する		
	13	グラフィックスAPI(2):OpenGL ES	OpenGL ESの概要および関連APIの利用方法について理解する		
	14	モバイルデバイスにおけるセキュリティ	モバイルデバイスにおけるセキュリティの概要および関連APIについて理解する		
	15	まとめ	成果物発表を行う		
16	期末試験				
テキスト	資料は講義で配布する。				
参考書	Android 開発者公式サイトドキュメント (http://developer.android.com/)				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	インターネット/セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①授業のテーマ 過去のインターネットでのトラブルやデジタル犯罪から対策方法を学び、セキュリティへの理解を深める。 本授業によりインターネットセキュリティへの基本的な考え方、対応策の知識を習得する。</p> <p>②授業の内容 インターネットの重要性、利便性の理解を深めつつ、過去に起こったネットトラブルや犯罪、事件等からインターネットのリスクと回避方法を学ぶ。</p> <p>③事前準備学修 参考資料を準備して読み込んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 授業で配布した資料の復習と授業内で説明した技術を自分で調べて学習を深めておく。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 標準的なWINDOWSマシンでのセキュリティ対策が自分でできるようになる。 インターネットセキュリティを自分で適切に行うことができる。 				
授業計画(30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	イントロダクション インターネットを使ったサービスを学ぶ	インターネット、メール、サーバ、クラウド		
	2	インターネットを使った犯罪 個人を狙う攻撃、企業を狙う攻撃を知る。	ハッキング		
	3	インターネット犯罪の歴史	コンピュータウイルス、ワーム、Winny		
	4	サイバー犯罪の目的を知る。 日本の法律を知る。	DDoS、ハッキング、京都警察		
	5	基本的なネットブラウジングを使うときの技術を知る。	DHCP、DNS、サーバ、ブラウザ		
	6	基本的なブラウジングのセキュリティ対策① 不正アクセスを知る。	不正アクセス、脆弱性 セキュリティソフト		
	7	基本的なブラウジングのセキュリティ対策② 無線LANの危険性	WEPキー解析、偽装アクセスポイント、 パケットキャプチャ		
	8	インターネットの脅威① ウイルス、ワームによる「感染」と「予防」を知る。	コンピュータウイルス、ワーム		

	9	インターネットの脅威② アドウェア、マルウェア、スパイウェアを知る。	スパイウェア
	10	インターネットの脅威③ 不正サイト、DNSハッキングによる仮想通貨ウォレット盗難。	不正サイト、DNSハッキング
	11	SNSの脅威① 情報漏洩による事件・事故から学ぶインターネットリテラシー	インターネットリテラシー
	12	SNSの脅威② アカウント乗っ取り手口から学ぶ防御対策	facebook、LINE、パスワード使いまわし
	13	ネットワークパケットを盗み見する手口とツールを学ぶ①	パケットスニッファ、wireShark、SSL
	14	ネットワークパケットを盗み見する手口とツールを学ぶ②	パケットスニッファ、wireShark、SSL
	15	授業のまとめ	前期の授業をまとめる
	16	期末試験	
テキスト	なし。 ※授業内でプリント、資料を配布する。		
参考書	「おうちで学べるセキュリティのきほん」 著者:増井 敏克 出版社:翔泳社、2015年 定価:2376 円+税 「安全なウェブサイトの作り方」 情報処理推進機構 (IPA) WEBにて無料公開中 https://www.ipa.go.jp/files/000017316.pdf (日本語版) https://www.ipa.go.jp/files/000017318.pdf (英語版)		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	インターネット/セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義				

授業概要	<p>①授業のテーマ 過去のインターネットでのトラブルやデジタル犯罪から対策方法を学び、セキュリティへの理解を深める。 本授業によりインターネットセキュリティへの基本的な考え方、対応策の知識を習得する。 前期で網羅しきれなかった内容を中心に講義する。</p> <p>②授業の内容 インターネットの重要性、利便性の理解を深めつつ、過去に起こったネットトラブルや犯罪、事件等からインターネットのリスクと回避方法を学ぶ。</p> <p>③事前準備学修 参考資料を準備して読み込んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 授業で配布した資料の復習と授業内で説明した技術を自分で調べて学習を深めておく。</p>
------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 標準的なWINDOWSマシンでのセキュリティ対策が自分でできるようになる。 インターネットセキュリティを自分で適切に行うことができる。
------	--

授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード
	1	外部から接続するネットワークを意図的に構築する	VPN、ネットワーク分割、リモート接続
	2	ネットワーク攻撃の手口と侵入を検知(防止)する。	ネットワーク攻撃
	3	暗号と認証① 無線LANの暗号化を知る。	WEP、WPA、WPA2
	4	暗号と認証② 電子証明書を知る。	電子証明書
	5	脆弱性について① WEBアプリケーションの静寂性をつく。	WEBアプリケーション
	6	脆弱性について② 脆弱性が多いリッチクライアント(Flash、AIR)	Flash、AIR
	7	脆弱性について③ 脆弱性を診断してみる。	脆弱性診断
	8	サーバセキュリティ① クラウドサービスの利便性と危険性	クラウドサービス
	9	サーバセキュリティ② サーバ攻撃の監視を試みる。	サーバ監視

	10	自作WEBアプリケーションで脆弱性を生まないために①	SQLインジェクション
	11	自作WEBアプリケーションで脆弱性を生まないために②	クロスサイトスクリプティング
	12	自作WEBアプリケーションで脆弱性を生まないために③	セッション乗っ取り
	13	自作WEBアプリケーションで脆弱性を生まないために④	クロスサイトリクエストフォージェリ(CSRF) 、WEBスクレイピング
	14	授業のまとめ①(期末対策)	後期の授業をまとめる
	15	授業のまとめ②(期末対策)	前期・後期の授業をまとめる
	16	期末試験	
テキスト	なし。 ※授業内でプリント、資料を配布する。		
参考書	<p>「おうちで学べるセキュリティのきほん」 著者:増井 敏克 出版社:翔泳社、2015年 定価:2376 円+税</p> <p>「安全なウェブサイトの作り方」 情報処理推進機構(IPA) WEBにて無料公開中 https://www.ipa.go.jp/files/000017316.pdf (日本語版) https://www.ipa.go.jp/files/000017318.pdf (英語版)</p>		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	キャリアデザインと就職方法				
教員氏名	石井 このみ				
授業の方法	講義で必要な知識・情報提供によって、理解を深め、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなど講師と学生同士が共同し、双方向的にかつ実践的に学習する。				
授業概要	<p>①授業の内容 今日、企業社会の求める人材要件は、学生生活に目的を持ち、チャレンジし自己管理できたかになる。またその成果成功体験により、自己の知識、技術、知恵をいかに習得したかである。そのためには、専門学校1年次より意識づけを行い、具体的方法を身につけることが重要である。そして将来のキャリアデザインに基づく就職活動の基本を学ぶ。</p> <p>(1)進路デザインに向けてのキャンパスライフの目的形成 (2)キャンパスライフの自己管理方法の習得 (3)キャンパスライフを通して自己の能力、価値の発見、創造 (4)将来の進路デザインの設計 (5)将来必要とされる就職活動の基本を学び修得する。</p> <p>②準備学習等の指示 次回講義する教科書の範囲を事前に確認し、最近のニュースに注目し、事前確認は、おおよそ30分程度要する。また、授業内容を再学習し、授業内容を徹底理解する。また、学んだことを実生活で意識して過ごし、活かすようにする。事後確認は、おおよそ30分程度の時間を要する。</p>				
到達目標	キャンパスライフの目的形成と自己管理方法、キャンパスライフを通して自己の能力や価値の発見・創造、将来の進路デザインの設計、そして、将来のキャリアデザインに基づく就職対策の基本を学び就職活動計画の基礎力を修得することを目標とする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	キャリア時代の人材観を知る	<p>【全授業共通】</p> <p>①アクティブラーニングとして、スマホを活用し、自己研究したことを授業毎に、指示されたフォーマットに書き込む。</p> <p>②「自己チェックレポート」により、授業に対する授業傾注度(授業で学んだこと、気付いたこと、修得したことなど)を簡潔にまとめ、自己評価し、総合コメントをする。</p>		
	2	人生を考え、大学生活(キャンパスライフ)の目的をつくる			
	3	キャンパスライフを目標にそって実行する自己管理の方法を知る			
	4	自分を良く知り、自分の価値を分析し、理解する			
	5	自分の価値を創造する、自己啓発の方法を習得する			
	6	自分の夢、将来を考え進路デザインを試みる			
	7	進路デザインに向けて具体的に何にチャレンジするかを目標設定する			
	8	進路デザインに向けて自分を試す方法を知り、社会との関連づくりを体験する			
	9	将来のためのビジネス知識を身につける			
	10	信頼を深める社会人マナーを身につける			
	11	人間関係を築くコミュニケーションスキルを身につける			
	12	自己PRや他者を説得するためのプレゼンテーションスキルを身につける			
	13	業界特性及び会社組織の内容を学び企業社会を理解する			
	14	企業社会の仕事、職種の内容について学びビジネスの専門性、責任、義務について理解する			
	15	キャリアデザインについての学び度、達成度について確認と評価を行う			
	16	期末試験			
テキスト	「グローバル時代が求める人材を目指すキャリアエンプロイアアビリティ形成法」 著者:加賀 博(日経BP社 発行)				
参考書	特に無し				
評価基準	1.毎授業に作成する自己チェックレポート課題と取り組み(40%) 2.期末に行う筆記試験(60%) 上記を総合的に加味し、科目担当者が評価する。				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	75時間
科目	サーバ・ネットワーク構築演習・セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義を中心に説明を進めていきますが、適宜演習を含めて実際の機器もしくはツールを操作して体験的に理解を深めていきます。				
授業概要	日本は情報化が急速に進展中。日々の生活や様々な活動の中で、今後も情報システムの利用が進展するのは必至。本授業では、情報システムの環境構築に欠かせないサーバやネットワークおよびセキュリティの基本知識について解説する。				
到達目標	情報化社会で欠かせない情報システム環境においてサーバやネットワークおよびセキュリティの基本知識の習得を目標とする。				
授業計画 (75h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ネットワークの基礎知識(Ⅰ)	インターネットの歴史と由来、仕組み、インターネット接続をする要素、企業ネットワークの構成について解説します。		
	2	ネットワークの基礎知識(Ⅱ)	LANとWAN、インターネットワーキングの概念、クライアントサーバとピアツーピアについて解説します。		
	3	TCP/IPの基礎知識(Ⅰ)	TCP/IPのレイヤー構成、OSI参照モデルとの対応、ネットワークインターフェース層の役割、インターネット層の役割、トランスポート層の役割について解説します。		
	4	TCP/IPの基礎知識(Ⅱ)	TCP/IPのレイヤーごとの処理とパケットの関係、ポート番号、信頼性を実現するTCPの通信手順等にていて解説します。		
	5	TCP/IPの基礎知識(Ⅲ)	グローバルIPとプライベートIP、IPアドレスのクラスとネットマスク、サブネット化とサブネットマスク等にていて解説します。		
	6	ネットワーク機器(Ⅰ)	イーサネットの機能と構成、L2スイッチ、L3スイッチとルーター、無線LAN、ポートベースVLANとタグベースVLAN、VPNとトンネルについて解説します。		
	7	ネットワーク機器(Ⅱ)	ルーティング、経路制御、BGP、QoS、マルチキャスト、仮想化について解説します。		
	8	オペレーティングシステム	オペレーティングシステム種類、歴史と特徴について解説します。		
	9	仮想化技術	サーバ仮想化の仕組み、技術の種類、歴史等について解説します。		
	10	サーバサービス(Ⅰ)	Webを支える技術、HTTP、HTTPSとSSL/TLS、SMTP、POP3とIMAP4、FTP等について解説します。		
	11	サーバサービス(Ⅱ)	SSH、DNS、NTP、サービス連携とREST API、HTMLの構造とXML、文字コード等について解説します。		
	12	セキュリティ(Ⅰ)	情報セキュリティの3大要素、暗号化と電子証明書、不正侵入の防止、不正プログラム、ファイアウォールとDMZについて解説します。		

	13	セキュリティ(Ⅱ)	アンチウイルスとコンテンツフィルタリング、IDSとIPS、UTMと次世代ファイアウォール、ソーシャルエンジニアリング、標準型攻撃、セキュリティポリシーの策定について解説します。
	14	情報システム環境構築関連性	サーバとネットワークおよびセキュリティの関連性について解説します。
	15	まとめ	これまでの講義内容のまとめを行い、理解度の確認を行います。
	16	期末試験	
テキスト	ネットワーク超入門講座 第4版 三上 信男著		
参考書	サーバ・ネットワーク・セキュリティを含め、各ベンダー社提供の教材を無償配付する。		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	75時間
科目	サーバ・ネットワーク構築演習・セキュリティ				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	まず前半は講義を通して情報システムの環境構築概念を習得する。次に実機及びツールなどを利用し情報システムの環境構築及び運用保守の演習(実習)を通じて情報システム環境構築の利活用に必要な知識と基本技術を習得することを目指す。				
授業概要	本授業では、情報システムの環境構築に欠かせないサーバやネットワークの構築と運用保守およびそれらを通じて提供される様々のサービスに存在するセキュリティ対策について、解説する。				
到達目標	高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。				
授業計画 (75h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	Windowsサーバ構築	Windows Server 2016のインストールとサーバサービスの設定について解説します。		
	2	Linuxサーバ構築	CentOS7を用いてLinuxサーバのインストールとサーバサービスのインストールと設定について解説します。		
	3	仮想化サーバ構築	VmwareとHyper-Vのインストールと設定方法などについて解説します。		
	4	サーバサービスの運用保守	WEBサーバ、DHCP、DNS、SSL/TLS、SMTP、POP3とIMAP4、FTP、Syslog、MRTG等のサーバサービスの設定、役割について解説します。		
	5	ネットワーク機器(Ⅰ)	ネットワークスイッチの実機もしくはツールを利用し、起動から初期の基本設定について解説します。		
	6	ネットワーク機器(Ⅱ)	ネットワークスイッチのSTP、OSPF、運用、保守に関わる設定について解説します。		
	7	セキュリティ機器(Ⅰ)	UTMの実機もしくはツールを利用し、起動から初期の基本設定について解説します。		
	8	セキュリティ機器(Ⅱ)	UTMのSTP、OSPF、運用、保守に関わる設定について解説します。		
	9	ネットワーク監視	ネットワークとセキュリティ機器を用いて模擬環境を構築し監視に必要なツールの構築と設定について解説します。		
	10	ネットワーク運用と保守	監視ツール、シスログ、MRTGなどを用いて、障害発生を想定し、対策などを議論する		
	11	サーバ監視	WindowsサーバとLinuxサーバを構築し監視に必要なツールの構築と設定について解説します。		
	12	サーバ運用と保守	監視ツール、シスログ、MRTGなどを用いて、障害発生を想定し、対策などを議論する		
	13	負荷分散	WEBサービス提供において欠かせない負荷分散技術について解説します。		
14	サーバとネットワークとセキュリティのドキュメント	ドキュメントの種類と内容とドキュメントの管理重要性について解説します。			

	15	まとめ	これまで学んだことを振り返り、企業や社会における情報システム環境構築の役割俯瞰して、全体のまとめを行う。
	16	期末試験	
テキスト	教科書、参考書は講義中に指示する。		
参考書	サーバ・ネットワーク・セキュリティを含め、各ベンダー社提供の教材を無償配付する。		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ビジネスコミュニケーションⅠ				
教員氏名	大西 うらら	実経験者			
授業の方法	講義も行うが、アクティビティやディスカッションを通して、理解を深める。専門知識を学ぶだけでなく、実践の場での応用を考えることができるようにする。授業内に行った課題については、講評を行う。				
授業概要	<p>現在は、社会・経済活動が地域や国家の枠組みを越えて多くの出来事が地球規模でおきている。このグローバル化の世の中では、多文化に対する認知および感性の両側面での個々人の「グローバル化」が求められている。</p> <p>それとともに、グローバル化社会の構成員であるローカルの人々を認知と感性で受け止めそれを他の人々にも伝えることなどにより、他の人々との共生を促す努力の必要性はいなめない。</p> <p>日本もグローバル化の波が押し寄せており、日本にいても、異文化の人々から直接的・間接的影響を受けている。</p> <p>また、日本人国籍保有者のみでも、年齢差、ジェンダー差、地域差、バックグラウンド、民族の差などのある人々との交流は、異文化コミュニケーションといえる。それだけではなく、人々の情報や思考に影響を与える、マス・コミュニケーションおよびマス・メディアについて学び、メディア・リテラシーを身につけることなしにはグローバル化に対応できない。</p> <p>本講座では、多文化社会を生きる力であるコミュニケーション力や感性を高め、グローバル化の世の中で他の人々が共生していくことができるための基礎を身につける。</p>				
到達目標	<p>グローバル化影響下の多文化社会でのコミュニケーションを理解し説明することができ、その知識を実践の場で応用することができる。</p> <p>他者への多角的思考の能力やコミュニケーションへのセンシティブリティが高くなり、異文化コンピテンスが育ち認知および感性の両面で他者や多文化を受け止めることができる。</p> <p>マス・コミュニケーション及びマス・メディアの役割と影響を学び、メディア・リテラシーの基礎が身に付き、それによりメディアの情報を収集・理解・分析できるようになる。</p> <p>以上により、現在および将来のスムーズな日本語および英語でのコミュニケーションができるようになる。</p>				
	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ビジネス・コミュニケーションとは？			
	2	コミュニケーションの概念			
	3	キャリアを考える			
	4	ビジネスマナー①			
	5	ビジネスマナー②			
	6	ビジネスマナー③			

授業計画 (30h)	7	傾聴スキル①	仕事をする上でのマナーと心構えから、顧客対応に必要なスキルの習得します。
	8	傾聴スキル②	
	9	職場でのミス・コミュニケーション①	
	10	職場でのミス・コミュニケーション②	
	11	多文化チームでの協働①	
	12	多文化チームでの協働②	
	13	コンフリクト・マネジメント①	
	14	コンフリクト・マネジメント②	
	15	コンフリクト・マネジメント③	
	16	期末試験	
テキスト	印刷物を配布する		
参考書	印刷物を配布する		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ビジネスコミュニケーションⅡ (GCB I)				
教員氏名	大西 うらら	実経験者			
授業の方法	講義も行うが、アクティビティやディスカッションを通して、理解を深める。専門知識を学ぶだけでなく、実践の場での応用を考えることができるようにする。授業内に行った課題については、講評を行う。				
授業概要	<p>現在は、社会・経済活動が地域や国家の枠組みを越えて多くの出来事が地球規模でおきている。このグローバル化の世の中では、多文化に対する認知および感性の両側面での個々人の「グローバル化」が求められている。</p> <p>それとともに、グローバル化社会の構成員であるローカルの人々を認知と感性で受け止めそれを他の人々にも伝えることなどにより、他の人々との共生を促す努力の必要性はいなめない。</p> <p>日本もグローバル化の波が押し寄せており、日本にいても、異文化の人々から直接的・間接的影響を受けている。</p> <p>また、日本人国籍保有者のみでも、年齢差、ジェンダー差、地域差、バックグラウンド、民族の差などのある人々との交流は、異文化コミュニケーションといえる。</p> <p>それだけではなく、人々の情報や思考に影響を与える、マス・コミュニケーションおよびマス・メディアについて学び、メディア・リテラシーを身につけることなしにはグローバル化に対応できない。</p> <p>本講座では、多文化社会を生きる力であるコミュニケーション力や感性を高め、グローバル化の世の中で他の人々が共生していくことができるための基礎を身につける。</p>				
到達目標	<p>グローバル化影響下の多文化社会でのコミュニケーションを理解し説明することができ、その知識を実践の場で応用することができる。</p> <p>他者への多角的思考の能力やコミュニケーションへのセンシティブリティが高くなり、異文化コンピテンスが育ち認知および感性の両面で他者や多文化を受け止めることができる。</p> <p>マス・コミュニケーション及びマス・メディアの役割と影響を学び、メディア・リテラシーの基礎が身に付き、それによりメディアの情報を収集・理解・分析できるようになる。</p> <p>以上により、現在および将来のスムーズな日本語および英語でのコミュニケーションができるようになる。</p>				
	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	グローバル化と多文化を生きる力			
	2	英語と日本人・世界の言語と言語政策			
	3	言語コミュニケーション			
	4	非言語コミュニケーション			
	5	まとめ1			
	6	文化について考える			

固定的な捉え方を越えて 文化やコミュニケー

授業計画 (30h)	7	コミュニケーション・スタイル	国際理解教育とコミュニケーションのダイナミクスに注目し、多文化を生きる力、グローバル・マインドとローカル・アフェクトを提案する。
	8	メディアとステレオタイプ	
	9	異文化適応	
	10	まとめ2	
	11	国際理解教育とコミュニケーション	
	12	アイデンティティとコミュニケーション	
	13	異文化接触とコミュニケーションの阻害要因	
	14	異文化コンピテンス	
	15	まとめ3	
	16	期末試験	
テキスト	八島智子・久保田真弓 (2012) 『異文化コミュニケーション論 グローバル・マインドとローカル・アフェクト』 松柏社		
参考書	印刷物を配布する		
評価基準	1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード	BC3	必須/選択	必須	単位	-
科目	ビジネスコミュニケーションⅢ(GCBⅡ)				
教員氏名	石井 このみ				
授業の方法	講義も行うが、アクティビティやディスカッションを通して、理解を深める。 専門知識を学ぶだけでなく、実践の場での応用を考えることができるようにする。 授業内に行った課題については、講評を行う。				
授業概要	人間が社会生活を送る上でコミュニケーションは必要不可欠であり、新卒採用で企業側が求める能力として「コミュニケーション能力」は16年連続でトップに挙げられている。IT関連の専門職であっても、円滑なプロジェクト推進のためにコミュニケーション能力は大変重要視されている。また、コロナ禍においてテレワークも急拡大しており、対面で「聞く」「話す」以外のコミュニケーションがさらに重要になっていくことが考えられる。 本講座では、ビジネス社会で必要不可欠なコミュニケーションについて、日本社会の文化についての知識も交えながら情報提供する。自分自身の頭で考え、意見交換し、トレーニングをし、多様性を受け入れながら知見を深めていくことができるような講座をおこなう。				
到達目標	ビジネスコミュニケーションの基礎を踏まえた応用編。 日本人・留学生ともに、異なる文化背景を持つ他者とコミュニケーションをとることに慣れる。 自身の考えを言語化し、自分の言葉で他者に伝え、他者の意見も受け入れる(受け止める)ことを学ぶ。 BC2の次の段階として、就職活動・実務における諸問題にどのように対応するか、ケーススタディを通し、読解力・問題解決力・仲間とのコミュニケーション力・人前で発言する力を身につける。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ビジネスコミュニケーションについて(オリエン)	就職活動・実務での諸問題をケーススタディとして提示し、それを読み、理解し、解決策について個人で考える→グループで話し合い、コンセンサスを取り、代表者が発表する→講師からコメント、妥当解を示し、各ケースの周辺情報の提供。これを3回に分け、十分な時間をとっておこなう。		
	2	ビジネスにおける雑談			
	3	職場でのやりとり			
	4	ケーススタディ1①			
	5	ケーススタディ1②			
	6	ケーススタディ1③			
	7	ケーススタディ2①			
	8	ケーススタディ2②			
	9	ケーススタディ2③			
	10	ケーススタディ3①			
	11	ケーススタディ3②			
	12	ケーススタディ3③			
	13	ケーススタディ4①			
	14	ケーススタディ4②			
	15	ケーススタディ4③			
	16	期末試験			
テキスト	印刷物を配布する				
参考書	印刷物を配布する				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

授業計画 (30h)	7	異文化接触とコミュニケーションの阻害要因(2)	異文化コミュニケーションのダイナミクスに注目し、多文化を生きる力、グローバル・マインドとローカル・アフェクトを提案する。
	8	異文化コンピテンス(1)	
	9	異文化コンピテンス(2)	
	10	まとめ2	
	11	グローバリゼーションと多文化を生きる力(1)	
	12	グローバリゼーションと多文化を生きる力(2)	
	13	英語と日本人・世界の言語と言語政策(1)	
	14	英語と日本人・世界の言語と言語政策(2)	
	15	まとめ3	
	16	期末試験	
テキスト	八島智子・久保田真弓 (2012) 『異文化コミュニケーション論 グローバル・マインドとローカル・アフェクト』 松柏社		
参考書	印刷物を配布する		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ビジネスコミュニケーションⅢ (GCB II)				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	講義も行うが、アクティビティやディスカッションを通して、理解を深める。専門知識を学ぶだけでなく、実践の場での応用を考えることができるようにする。授業内に行った課題については、講評を行う。				
授業概要	<p>現在は、社会・経済活動が地域や国家の枠組みを越えて多くの出来事が地球規模でおきている。</p> <p>このグローバル化の世の中では、多文化に対する認知および感性の両側面での個人個人の「グローバル化」が求められている。</p> <p>それとともに、グローバル化社会の構成員であるローカルの人々を認知と感性で受け止めそれを他の人々にも伝えることなどにより、他の人々との共生を促す努力の必要性はいない。</p> <p>日本もグローバル化の波が押し寄せており、日本にいても、異文化の人々から直接的・間接的影響を受けている。</p> <p>また、日本人国籍保有者のみでも、年齢差、ジェンダー差、地域差、バックグラウンド、民族の差などのある人々との交流は、異文化コミュニケーションといえる。</p> <p>それだけではなく、人々の情報や思考に影響を与える、マス・コミュニケーションおよびマス・メディアについて学び、メディア・リテラシーを身につけることなしにはグローバル化に対応できない。</p> <p>本講座では、多文化社会を生きる力であるコミュニケーション力や感性を高め、グローバル化の世の中で他の人々が共生していくことができるための基礎を身につける。</p>				
到達目標	<p>グローバル化影響下の多文化社会でのコミュニケーションを理解し説明することができ、その知識を実践の場で応用することができる。</p> <p>他者への多角的思考の能力やコミュニケーションへのセンシティブリティが高くなり、異文化コンピテンスが育ち認知および感性の両面で他者や多文化を受け止めることができる。</p> <p>マス・コミュニケーション及びマス・メディアの役割と影響を学び、メディア・リテラシーの基礎が身に付き、それによりメディアの情報を収集・理解・分析できるようになる。</p> <p>以上により、現在および将来のスムーズな日本語および英語でのコミュニケーションができるようになる。</p>				
	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	国際理解教育とコミュニケーション(1)			
	2	国際理解教育とコミュニケーション(2)			
	3	アイデンティティとコミュニケーション(1)			
	4	アイデンティティとコミュニケーション(2)			
	5	まとめ1			
	6	異文化接触とコミュニケーションの阻害要因(1)			

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ビジネスソフト演習I (Word, Excel)				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	実習、演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ Word2016とExcel2016の基本機能や操作を身につけながら、オフィスワークの各場面において活用できるようにする</p> <p>②授業の内容</p> <p>Word2016 ・基本操作と各種機能 ・ビジネス書類テンプレート</p> <p>Excel2016 ・基本操作と各種機能 ・ビジネス書類テンプレート</p> <p>③事前準備学修 ・時間がある時にキーボードに触れ、一つでも多くのショートカット機能を身につけておく ・授業に臨む前に、“WordやExcelでこんなことができるんだ！”と自分でできるイメージを膨らませておく</p> <p>④事後展開学修 ・実習、演習を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない</p>				
到達目標	Word、Excelの各種テンプレートを上手く活用し、スピーディーにビジネス書類を作成できる				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	Word2016基本操作と各種機能	基本操作と各種機能の確認		
	2	ビジネス書類テンプレート(1)	各種テンプレートについて		
	3	ビジネス書類テンプレート(2)	各種証明書、届出書類		
	4	ビジネス書類テンプレート(3)	FAX送信状、各種送付状		
	5	ビジネス書類テンプレート(4)	会社案内、回覧文書		
	6	ビジネス書類テンプレート(5)	稟議書、議事録		
	7	ビジネス書類テンプレート(6)	名刺、ネームラベル		
	8	Excel2016基本操作と各種機能	基本操作と各種機能の確認		
	9	ビジネス書類テンプレート(1)	各種テンプレートについて		
	10	ビジネス書類テンプレート(2)	社員名簿、顧客名簿		
	11	ビジネス書類テンプレート(3)	見積書、納品書他 各種発行書類		
	12	ビジネス書類テンプレート(4)	売上管理		
	13	ビジネス書類テンプレート(5)	スケジュール表、シフト表		
	14	ビジネス書類テンプレート(6)	勤務時間、給与計算表		
	15	ビジネス書類テンプレート(7)	履歴書、職務経歴書		
	16	期末試験			
テキスト	<p>エクセル&ワード&パワポ ビジネス書類テンプレート OFFICE 2007/2010/2013/2016対応(Windows版) 著者：佐藤瑞恵、鈴木利衣子 出版社：宝島社(2016年8月20日発行) 定価：1080円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	ビジネスソフト演習Ⅱ (PowerPoint, Access)				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	実習、演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ PowerPoint2016とAccess2016の基本機能や操作を身につけながら、オフィスワークの各場面において活用できるようにする</p> <p>②授業の内容 PowerPoint2016 ・基本操作と各種機能 ・ビジネス書類テンプレート Access2016 ・基本操作と各種機能 ・ビジネス書類テンプレート ・データベース設計</p> <p>③事前準備学修 ・時間がある時にキーボードに触れ、一つでも多くのショートカット機能を身につけておく ・授業に臨む前に、“PowerPointやAccessでこんなことができるんだ！”と自分でもできるイメージを膨らませておく</p> <p>④事後展開学修 ・実習、演習を通じて一つでも便利な機能を覚えたら、日常生活に於いても使いこなすようにする ・完璧にできたつもりでもそのままにせず、時間のある時に再度確認をしながら、日々のスキルアップを怠らない</p>				
到達目標	PowerPoint、Accessの各種テンプレートを上手く活用し、スピーディーにビジネス書類を作成できる				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	PowerPoint2016基本操作と各種機能	基本操作と各種機能の確認		
	2	ビジネス書類テンプレート(1)	各種テンプレートについて		
	3	ビジネス書類テンプレート(2)	図・SmartArtを使ったスライド		
	4	ビジネス書類テンプレート(3)	表・グラフを用いたスライド		
	5	プレゼン企画・作成(1)	プレゼンの企画を立てる		
	6	プレゼン企画・作成(2)	テンプレートを利用したスライド作成		
	7	発表	発表と全体の講評		
	8	Access2016基本操作と各種機能	基本操作と各種機能の確認		
	9	ビジネス書類テンプレート	各種テンプレートについて		
	10	データベースの設計(1)	テーブルの作成		
	11	データベースの設計(2)	クエリの作成(1)		
	12	データベースの設計(3)	クエリの作成(2)		
	13	データベースの設計(4)	フォームの作成		
	14	データベースの設計(5)	レポートの作成(1)		
	15	データベースの設計(6)	レポートの作成(2)		
16	期末試験				
テキスト	<p>エクセル&ワード&パワポ ビジネス書類テンプレート OFFICE 2007/2010/2013/2016対応(Windows版) 著者：佐藤瑞恵、鈴木利衣子 出版社：宝島社(2016年8月20日発行) 定価：1080円(税込)</p> <p>今すぐ使えるかんたんmini ~Access2016 基本技 最新~ 著者：技術評論社編集部+AYURA 著 出版社：技術評論社(2016年8月1日発行) 定価：1058円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ビジネスマナー				
教員氏名	神保 明史	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ マナーとは何かということ認識し、ビジネスパーソンに不可欠な状況に応じたマナーを身につける</p> <p>②授業の内容 以下のことをワークショップを交えながら学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス会話の基本 ・電話の基本 ・報告、連絡、相談 <p>③事前準備学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストでイラストで解説している箇所は、自分でも真似をしながら練習する ・調べた内容は、その日のうちにノート等に書いてまとめる <p>④事後展開学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストP14～15の『話し方・聞き方のきほん10か条』は、授業中、学校の内外問わず常に意識して行動する ・学習が済んだ箇所でも、確認の意味でしっかり見直す 				
到達目標	心構えや行動、身だしなみ、考え方・受け取り方、話し方・聞き方など、“なぜそうしなければならないのか”を理解し、各場面に応じたマナーを心掛け、実践できる				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ビジネス会話の基本(1)	あいづちの打ち方		
	2	ビジネス会話の基本(2)	要点のつかみ方		
	3	ビジネス会話の基本(3)	敬語の役割、効果		
	4	ビジネス会話の基本(4)	あいさつのしかた		
	5	電話の基本(1)	電話の取り方(きまりとマナー)		
	6	電話の基本(2)	電話のかけ方(きまりとマナー)		
	7	電話の基本(3)	クレーム電話の対処法		
	8	電話の基本(4)	英語の電話		
	9	電話の基本(5)	携帯電話での対応		
	10	報告・連絡・相談(1)	報告の基本		
	11	報告・連絡・相談(2)	報告するときの注意点		
	12	報告・連絡・相談(3)	連絡の基本		
	13	報告・連絡・相談(4)	連絡するときの注意点		
	14	報告・連絡・相談(5)	相談の基本		
	15	報告・連絡・相談(6)	相談するときの注意点		
	16	期末試験			
テキスト	<p>さすが！と言われる話し方・聞き方の ビジネスマナー</p> <p>著者：唐沢 明 出版社：高橋書店(2017年3月30日発行) 定価：1080円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ビジネスマナー				
教員氏名	神保 明史	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ マナーとは何かということを知り、ビジネスパーソンに不可欠な状況に応じたマナーを身につける</p> <p>②授業の内容 以下のことをワークショップを交えながら学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社外での話し方 ・いざという時の対処法 ・社外でのマナー <p>③事前準備学修 ・テキストでイラストで解説している箇所は、自分でも真似をしながら練習する ・調べた内容は、その日のうちにノート等に書いてまとめる</p> <p>④事後展開学修 ・テキストP14～15の『話し方・聞き方のきほん10か条』は、授業中、学校の内外を問わず、常に意識して行動する ・学習が済んだ箇所でも、確認の意味でしっかり見直す</p>				
到達目標	心構えや行動、身だしなみ、考え方・受け取り方、話し方・聞き方など、“なぜそうしなければならないのか”を理解し、各場面に応じたマナーを心掛け、実践できる				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	社外での話し方(1)	他社を訪問するとき		
	2	社外での話し方(2)	名刺交換・自己紹介のルール		
	3	社外での話し方(3)	取引先での会話のルール		
	4	社外での話し方(4)	交渉のしかた		
	5	社外での話し方(5)	社外での提案・発表のしかた		
	6	いざという時の対処法(1)	失敗したとき		
	7	いざという時の対処法(2)	謝るとき、詫言するとき		
	8	いざという時の対処法(3)	人にものを頼むとき		
	9	いざという時の対処法(4)	上手な断りかた		
	10	いざという時の対処法(5)	主張・諸事情を伝えるとき		
	11	社外でのマナー(1)	社外で気をつけること		
	12	社外でのマナー(2)	接待するとき・されるとき		
	13	社外でのマナー(3)	パーティー・交流の場で		
	14	社外でのマナー(4)	結婚式で		
	15	社外でのマナー(5)	弔事で		
	16	期末試験			
テキスト	<p>さすが！と言われる話し方・聞き方のビジネスマナー</p> <p>著者：唐沢 明 出版社：高橋書店(2017年3月30日発行) 定価：1080円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード	BEN	必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ビジネス英語				
教員氏名	石井 このみ				
授業の方法	講義、演習				
授業概要	<p>ビジネス場面でのメールや会話を題材にしたテキストを用いて、語彙力、リスニング力、リーディング力、スピーキング力、ライティング力の向上を目指す。</p> <p>①予習: 該当Unitを必ず事前に読み、問題を解いてくること。分からない単語を調べ、全体の内容を理解してくること。</p> <p>②授業: 文章の内容や文法事項の確認、音声資料を用いたリスニングに取り組む。音読を通して、語彙や表現の定着をはかる。</p> <p>③復習: 授業の内容を確認する。繰り返し音読する。</p>				
到達目標	ビジネスにおいて必要な基礎的な語彙や表現を身に着ける。リスニング、リーディング、スピーキング力、ライティング力の向上を目指す。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	授業の進め方、Unit1	オリエンテーション、Job Hunt		
	2	Unit1	Job Hunt		
	3	Unit2	Asking a Favor		
	4	Unit2	Asking a Favor		
	5	Unit3	Decision Time		
	6	Unit3	Decision Time		
	7	Unit4	A Lucky Break		
	8	Unit4	A Lucky Break		
	9	Unit5	Fun in the Sun		
	10	Unit5	Fun in the Sun		
	11	Unit6	Welcome to the Land of the Rising Sun		
	12	Unit6	Welcome to the Land of the Rising Sun		
	13	Unit7	Bottoms Up		
	14	Unit7	Bottoms Up		
	15	Unit8	The World's Most Comfortable City		
16	期末試験				
テキスト	<p>Working Abroad: Learning to Communicate via Emails and Telephone Conversations 著者: 行時潔、長田順子、Nicholas Bovee 出版社: 松柏社 定価: 1900円(税抜き)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード	BEN	必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ビジネス英語				
教員氏名	石井 このみ				
授業の方法	講義、演習				
授業概要	<p>ビジネス場面でのメールや会話を題材にしたテキストを用いて、語彙力、リスニング力、リーディング力、スピーキング力、ライティング力の向上を目指す。</p> <p>①予習: 該当Unitを必ず事前に読み、問題を解いてくること。分からない単語を調べ、全体の内容を理解してくること。</p> <p>②授業: 文章の内容や文法事項の確認、音声資料を用いたリスニングに取り組む。音読を通して、語彙や表現の定着をはかる。</p> <p>③復習: 授業の内容を確認する。繰り返し音読する。</p>				
到達目標	ビジネスにおいて必要な基礎的な語彙や表現を身に着ける。リスニング、リーディング、スピーキング力、ライティング力の向上を目指す。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	Unit8	Touching Base		
	2	Unit9	The World's Most Comfortable City		
	3	Unit9	Touching Base		
	4	Unit10	The Lion City		
	5	Unit10	The Lion City		
	6	Unit11	Heading Down Under		
	7	Unit11	Heading Down Under		
	8	Unit12	Dreams Come True		
	9	Unit12	Dreams Come True		
	10	Unit13	An Unexpected Invitation		
	11	Unit13	An Unexpected Invitation		
	12	Unit14	The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland		
	13	Unit14	The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland		
	14	Unit15	Back to a Good Old City		
	15	Unit15	Back to a Good Old City		
16	期末試験				
テキスト	<p>Working Abroad: Learning to Communicate via Emails and Telephone Conversations</p> <p>著者: 行時潔、長田順子、Nicholas Bovee</p> <p>出版社: 松柏社</p> <p>定価: 1900円(税抜き)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する。				
評価基準	<p>1. 期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画 (15h)		週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	対面式	1・2年合同実施		
	2	レクレーション	1・2年合同実施		
	3	望ましい学生生活とは？(1)	グループディスカッション		
	4	望ましい学生生活とは？(2)	発表準備		
	5	望ましい学生生活とは？(3)	発表		
	6	図書室の活用法	蔵書の紹介、利用マナーの促し		
	7	映像学習(1)	職業に関するもの(1)		
	8	映像学習(2)	職業に関するもの(2)		
	9	第1回個別面談	学校生活全般についての聞き取り		
	10				
	11	映像学習(3)	交通安全に関するもの(1学年向け)		
	12	映像学習(4)	犯罪防止に関するもの(1学年向け)		
	13	夏休みを迎えるにあたって	1・2年合同実施		
	14	映像学習(5)	健康に関するもの(1学年向け)		
15	前期を振り返って	1・2年合同実施			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
おすすめの参考書 参考サイト URL	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画 (15h)		週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	後期に向けて	学生生活への意識・方向づけ		
	2	映像学習(6)	職業に関するもの(3)		
	3	映像学習(7)	職業に関するもの(4)		
	4	映像学習(8)	日本の大学に関するもの		
	5	第2回個別面談	卒業後の進路についての聞き取り		
	6				
	7	映像学習(9)	交通安全に関するもの(2)		
	8	映像学習(10)	犯罪防止に関するもの(2)		
	9	冬休みを迎えるにあたって	1・2年合同実施		
	10	予餞会企画・準備(1)	企画・役割分担を決める		
	11	予餞会企画・準備(2)	準備・リハーサル		
	12	予餞会企画・準備(3)			
	13	予餞会企画・準備(4)	1・2年合同実施		
	14	予餞会			
15	1年間を振り返って	学生へのフィードバック			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
おすすめの参考書 参考サイト URL	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画 (15h)	週ごとのテーマ		概要/キーワード		
	1	対面式	1・2年合同実施		
	2	レクリエーション	1・2年合同実施		
	3	個別面談	卒業後の進路についての聞き取り		
	4				
	5	卒業研究下調べ	卒業研究関連の調べ学習		
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11	映像学習(1)	交通安全に関するもの(2学年向け)		
	12	映像学習(2)	犯罪防止に関するもの(2学年向け)		
	13	夏休みを迎えるにあたって	1・2年合同実施		
	14	映像学習(3)	健康に関するもの(2学年向け)		
15	前期を振り返って	学生へのフィードバック			
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
おすすめの参考書 参考サイト URL	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	ホームルーム				
教員氏名	担任教員				
授業の方法	講義、演習、面接など				
授業概要	1. 教師と学生とのコミュニケーション、信頼関係の構築 2. クラス及び学年間の団結力の向上 3. 卒業後の進路について考えるきっかけ、習慣の確立				
到達目標	ある時には自身を振り返り、ある時には他者からのアドバイスを受けながら、集団生活に於けるコミュニケーション、信頼関係、自らの人生設計を築くことができる				
授業計画 (15h)		週ごとのテーマ		概要/キーワード	
	1	後期に向けて		学生生活への意識・方向づけ	
	2	卒業研究下調べ		卒業研究関連の調べ学習	
	3				
	4				
	5				
	6				
	7	映像学習(3)		交通安全に関するもの(2学年向け)	
	8	映像学習(4)		犯罪防止に関するもの(2学年向け)	
	9	冬休みを迎えるにあたって		1・2年合同実施	
	10	卒業研究下調べ		卒業研究関連の調べ学習	
	11				
	12				
	13				
	14	予餞会		1・2年合同実施	
15	二年間の学生生活を振り返って		学生へのフィードバック		
テキスト	使用せず。必要に応じてプリント等を配布する。 事前に準備が必要な場合には、校内掲示板や学校HPで告知するので、忘れずに確認すること。				
おすすめの参考書 参考サイト URL	授業内で随時紹介する。				
評価基準	1. 聴講・参加態度(30%) 2. 各テーマや問題に対する取り組み(50%) 3. 出席(20%) ※例えば映像学習の場合、毎時間視聴レポートを課し、その出来具合を評価する 《その他》 授業に欠席した場合は、その時間数に応じてレポートを提出してもらいます				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	一般教養 I				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	講義、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職試験で出題されやすい一般常識について学習し、2021年度の就職活動に備える</p> <p>②授業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 前時に指定した箇所を出題範囲とし、授業の最初の15分を使って行う ・解説 小テストの答え合わせとフィードバック <p>③事前準備学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって初めて聞く用語に出くわしたら、直ぐにインターネットや事典等で調べる ・調べた内容は、その日のうちにノート等を書いてまとめる ・時間のある時には、次回の確認小テストの勉強をする <p>④事後展開学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストで間違った所は、マーカーや付せんなどでチェックし、正解するまでくり返し覚える ・学習が済んだ箇所でも、確認の意味でしっかり見直す 				
到達目標	就職試験で頻繁に問われる一般常識の各分野を一問一答形式で答えられるようにする				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ		概要/キーワード	
	1	国語表現力(1)		常用漢字の読み書き、難読漢字の読み	
	2	国語表現力(2)		四字熟語、ことわざ・慣用句	
	3	国語表現力(3)		日本文学、短歌、俳句、詩	
	4	英語表現力(1)		単語・熟語	
	5	英語表現力(2)		基本構文、時事英語	
	6	政治・経済(1)		政治・法律	
	7	政治・経済(2)		経済	
	8	政治・経済(3)		国内情勢	
	9	政治・経済(4)		国際情勢	
	10	自然科学(1)		社会で役立つ分析手法	
	11	自然科学(2)		n進法	
	12	自然科学(3)		地球科学	
	13	自然科学(4)		生物化学	
	14	人文学(1)		地理	
	15	人文学(2)		歴史	
	16	期末試験			
テキスト	<p>「赤チェックシート付 一般常識&最新時事 一問一答 頻出1500問 2021年度」 ～高橋の就職シリーズ～単行本(ソフトカバー)</p> <p>著者: 角倉 裕之 出版社: 高橋書店 (2018年1月10日出版) 定価: 1,404円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する				
評価基準	<p>1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	一般教養Ⅱ				
教員氏名	神保 明史				
授業の方法	講義、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職試験で出題されやすい最新時事問題について学習し、2021年度の就職活動に備え</p> <p>②授業の内容 ・小テスト 前時に指定した箇所を出題範囲とし、授業の最初の15分を使って行う</p> <p>・解説 小テストの答え合わせとフィードバック</p> <p>③事前準備学修 ・自分にとって初めて聞く用語に出くわしたら、直ぐにインターネットや事典等で調べる ・調べた内容は、その日のうちにノート等を書いてまとめる ・時間のある時には、次回の確認小テストの勉強をする</p> <p>④事後展開学修 ・確認小テストで間違った所は、マーカーや付せんんでチェックし、正解するまでくり返し覚える ・学習が済んだ箇所でも、確認の意味でしっかり見直す</p>				
到達目標	就職試験で頻りに問われる最新時事問題の各分野を、一問一答形式で答えられるようにする				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	国内政治・経済(1)	歴代首相、憲法、法令		
	2	国内政治・経済(2)	制度改革		
	3	国内政治・経済(3)	経済論、経済史、経済協定		
	4	社会問題(1)	年金、少子高齢化		
	5	社会問題(2)	教育		
	6	国際問題(1)	常任理事国、国連安全保障理事会		
	7	国際問題(2)	領土問題		
	8	環境問題(1)	公害		
	9	環境問題(2)	新エネルギー		
	10	世界遺産(1)	文化遺産、自然遺産		
	11	世界遺産(2)	複合遺産		
	12	時事英語(1)	国際略語		
	13	時事英語(2)	メディア英語		
	14	ノーベル賞(1)	文学賞、平和賞、経済学賞		
	15	ノーベル賞(2)	物理学賞、化学賞、医学・生理学賞		
	16	期末試験			
テキスト	<p>「赤チェックシート付 一般常識&最新時事 一問一答 頻出1500問 2021年度」 ～高橋の就職シリーズ～単行本(ソフトカバー)</p> <p>著者: 角倉 裕之 出版社: 高橋書店 (2018年1月10日出版) 定価: 1,404円(税込)</p>				
参考書	授業内で随時紹介する				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	15時間
科目	基礎体力				
教員氏名	加藤 大輝				
授業の方法	講義、実技指導				
授業概要	講義を通して体力の要素を理解し、実技指導を通して体力を鍛える方法を取得する。				
到達目標	体力の要素についての理解を深め、身体要素と精神要素を鍛える方法を自分自身で取得できること。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	体力の要素	体力の要素の分類について解説します。		
	2	精神的要素Ⅰ	行動体力の意志・判断・意欲について解説する。		
	3	精神的要素Ⅱ	防衛体力の精神的ストレスに対する抵抗力について解説する。		
	4	身体的要素Ⅰ	行動体力の形態内容で体格について解説する。		
	5	身体的要素Ⅱ	行動体力の機能内容で行動を起こす力・行動を持続する力・行動を調節する力について解説する。		
	6	身体的要素Ⅲ	防衛体力の構造内容で器官・組織の構造について解説する。		
	7	身体的要素Ⅳ	防衛体力の機能内容で温度調節・免疫・身体的ストレスに対する抵抗力について解説する。		
	8	行動を起こす力の筋力	筋力・背筋力などの付け方について実技指導する。		
	9	行動を起こす力の瞬発力	瞬発力の向上方法について実技指導する。		
	10	行動を持続する力の筋持久力	筋持久力について実技指導する。		
	11	行動を持続する力の全身持久力	全身持久について実技指導する。		
	12	行動を調節する力の敏捷性	敏捷性について実技指導する。		
	13	行動を調節する力の平衡性	平衡性について実技指導する。		
	14	行動を調節する力の巧緻性	巧緻性について実技指導する。		
	15	行動を調節する力の柔軟性	柔軟性について実技指導する。		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	独自に準備				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	15時間
科目	基礎体力				
教員氏名	加藤 大輝				
授業の方法	講義、実技指導				
授業概要	講義と実技指導を通して体力を鍛えて行くことを目指す。授業は基本校舎内を利用しますが、まれに市運営の施設を利用し、団体競技を実施する。				
到達目標	体力の要素についての理解を深め、実技を通して身体要素を鍛える方法を自分自身で取得できること。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	体力測定	学生の体力を測定し、現状を確認する		
	2	ラジオ体操Ⅰ	ラジオ体操の前半について、正しくやり方を実技指導する。		
	3	ラジオ体操Ⅱ	ラジオ体操の後半について、正しくやり方を実技指導する。		
	4	実技Ⅰ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこしなど実施する。		
	5	実技Ⅱ	ラジオ体操、懸垂腕屈伸、全身反応時間、反復横とびなど実施する。		
	6	実技Ⅲ	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施		
	7	体育館での実技Ⅰ	サッカー、バレーボールなどの競技を実施する。		
	8	実技Ⅳ	ラジオ体操、全身反応時間、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈など実施する。		
	9	実技Ⅴ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	10	実技Ⅵ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこし、懸垂腕屈伸、伏臥上体そらしなど実施する。		
	11	体育館での実技Ⅱ	バスケットボール、キャッチボールなどの競技を実施する。		
	12	実技Ⅶ	ラジオ体操、全身反応時間、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈など実施する。		
	13	実技Ⅷ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	14	実技Ⅸ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこし、懸垂腕屈伸、伏臥上体そらしなど実施する。		
	15	体育館での実技Ⅲ	バスケットボール、キャッチボールなどの競技を実施する。		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	独自に準備				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出、体力測定を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	15時間
科目	基礎体力				
教員氏名	加藤 大輝				
授業の方法	講義、実技指導				
授業概要	実技指導を通して体力を鍛えて行くことを目指す。授業は基本校舎内を利用しますが、まれに市運営の施設を利用し、団体競技を実施する予定。				
到達目標	体力の要素についての理解を深め、身体要素と精神要素を鍛える方法を自分自身で取得できること。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要／キーワード		
	1	実技Ⅰ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこしなど実施する。		
	2	実技Ⅱ	ラジオ体操、懸垂腕屈伸、全身反応時間、反復横とびなど実施する。		
	3	実技Ⅲ	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	4	実技Ⅳ	ラジオ体操、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	5	体育館での実技Ⅰ	サッカー、バレーボールなどの競技を実施する。		
	6	実技Ⅴ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこし、懸垂腕屈伸、全身反応時間など実施する。		
	7	実技Ⅵ	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	8	実技Ⅶ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	9	実技Ⅷ	ラジオ体操、全身反応時間、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈など実施する。		
	10	体育館での実技Ⅱ	バスケットボール、卓球などの競技を実施する。		
	11	実技Ⅸ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこしなど実施する。		
	12	実技Ⅹ	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	13	実技Ⅺ	ラジオ体操、垂直飛び、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	14	実技Ⅻ	ラジオ体操、垂直飛び、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	15	体育館での実技Ⅲ	バスケットボール、卓球などの競技を実施する。		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	独自に準備				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での体力測定と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	15時間
科目	基礎体力				
教員氏名	加藤 大輝				
授業の方法	講義、実技指導				
授業概要	講義と実技指導を通して体力を鍛えて行くことを目指す。授業は基本校舎内を利用しますが、まれに市運営の施設を利用し、団体競技を実施する。				
到達目標	社会人に向けて身体要素と精神要素を鍛える方法を自分自身で取得し、習慣できることを目指す。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	体育館での実技Ⅰ	サッカー、バレーボールなどの競技を実施する。		
	2	実技Ⅰ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこしなど実施する。		
	3	実技Ⅱ	ラジオ体操、懸垂腕屈伸、全身反応時間、反復横とびなど実施する。		
	4	実技Ⅲ	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	5	実技Ⅳ	ラジオ体操、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	6	体育館での実技Ⅱ	バスケットボール、キャッチボールなどの競技を実施する。		
	7	実技Ⅴ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、上体おこし、懸垂腕屈伸、全身反応時間など実施する。		
	8	実技Ⅵ	ラジオ体操、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	9	実技Ⅶ	ラジオ体操、垂直飛び、立ち幅、閉眼片足立ち、座位体前屈、伏臥上体そらしなど実施する。		
	10	実技Ⅷ	ラジオ体操、全身反応時間、反復横とび、閉眼片足立ち、座位体前屈など実施する。		
	11	体育館での実技Ⅲ	バレーボール、キャッチボールなどの競技を実施する。		
	12	簡単な体操Ⅰ	社会人になってから、仕事中でも簡単にできる体操方法について実技指導する。		
	13	簡単な体操Ⅱ	仕事中でも簡単にできる体操方法について取得できるよう実技指導する。		
	14	精神的ストレス解消Ⅰ	精神的ストレス解消方法について、みんなで議論し、解消方法を共有する。		
	15	精神的ストレス解消Ⅱ	精神的ストレス解消方法について、みんなで議論し、解消方法を共有する。		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	独自に準備				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出、体力測定を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	就職実務I				
教員氏名	担任教員	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備 職業人意識・ビジネス・マナー等、企業から求められる諸点への理解を深める。 ビジネス能力検定ジョブパス演習によりビジネス能力向上を図る。</p> <p>提出書類対策 自己分析、自己PR 企業・業界・職種研究を行い、志望動機の作成</p> <p>筆記試験対策 時事問題、経済用語、一般常識問題、作文・小論文対策</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	①授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を進め、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	職業人意識について(1)	社会人、企業人への準備・心構え		
	2	職業人意識について(2)	企業側が求める諸点		
	3	職業人意識について(3)	働くことの意義		
	4	ビジネス・マナー(1)	社会人・企業人の基礎		
	5	ビジネス・マナー(2)	敬語の使い方		
	6	ビジネス・マナー(3)	社会常識		
	7	ビジネス能力検定ジョブパス(1)	日検チャレンジ、公式試験問題集		
	8	ビジネス能力検定ジョブパス(2)			
	9	ビジネス能力検定ジョブパス(3)			
	10	自己分析(1)	エニアグラムにより自己分析		
	11	自己分析(2)	お互いの自己分析評価ワークショップ		
	12	自己分析(3)	自分の長所・短所、他人からの評価		
	13	自己分析(4)	自己PR、プレゼンテーション訓練		
	14	企業・業界・職種研究(1)	どんな会社、どんな職種があるか確認		
	15	企業・業界・職種研究(2)			
	16	期末試験			
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く！就職活動オールガイド'20年版」成美堂出版、価格1,100円＋税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,200円＋税金</p> <p>「ジョブパス能力検定ジョブパス」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,300円＋税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	就職実務I				
教員氏名	担任教員	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備 職業人意識・ビジネス・マナー等、企業から求められる諸点への理解を深める。 ビジネス能力検定ジョブパス演習によりビジネス能力向上を図る。</p> <p>提出書類対策 自己分析、自己PR 企業・業界・職種研究を行い、志望動機の作成</p> <p>筆記試験対策 時事問題、経済用語、一般常識問題、作文・小論文対策</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	①授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を進め、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	経済新聞購読(1)	社会・経済への理解、一般常識対策		
	2	経済新聞購読(2)			
	3	CSR研究	企業の社会的責任		
	4	SDGsへの理解(1)	企業の対処すべき課題		
	5	SDGsへの理解(2)			
	6	SDGsへの理解(3)			
	7	時事問題(1)	時事問題への理解		
	8	時事問題(2)			
	9	コミュニケーションン能力養成(1)	テーマを決めてプレゼンテーション訓練		
	10	コミュニケーションン能力養成(2)			
	11	コミュニケーションン能力養成(1)	PREP法訓練		
	12	コミュニケーションン能力養成(2)			
	13	エントリーシート作成	志望動機作成、自己PR		
	14	履歴書作成(1)	自分のキャリア確認		
	15	履歴書作成(2)			
	16	期末試験			
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く！就職活動オールガイド'20年版」成美堂出版、価格1,100円＋税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,200円＋税金</p> <p>「ジョブパス能力検定ジョブパス」</p> <p>日本能力協会マネジメントセンター 価格1,300円＋税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	就職実務II				
教員氏名	担任教員	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備(職業人意識・ビジネス・マナー、ビジネス能力養成)に基づき筆記試験対策、受験アプローチ対策、面接対策を行う。 特に実際の就職試験を想定し、面接訓練、ロールプレイング、グループディスカッションのワークショップを実施する。 多くの企業が採用しているSPIテストの練習に力を入れる。 エントリーシート、履歴書に基づき個別面接指導を実施する。</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	①授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を整え、模擬訓練実施の上、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	エントリーシート・履歴書確認	志望動機、受験への覚悟		
	2	個別面談	志望先確認、個別戦略徹底		
	3	筆記試験対策	SPIテスト過去問題集で練習		
	4	筆記試験対策(1)	練習はアクティブラーニング		
	5	筆記試験対策(2)			
	6	筆記試験対策(3)			
	7	筆記試験対策(4)	適正検査対策、公式・文法復習		
	8	筆記試験対策(5)	作文・小論文対策		
	9	筆記試験対策(6)			
	10	筆記試験対策(7)	時事問題、経済用語対策、WEBテスト練習		
	11	筆記試験対策(8)			
	12	面接対策(1)	面接訓練、ロールプレイング		
	13	面接対策(2)			
	14	面接対策(3)			
	15	面接対策(4)	第一印象・マナー対策		
	16	期末試験			
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く！就職活動オールガイド」20年版 成美堂出版 価格1,100円＋税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター 価格1,200円＋税金</p> <p>「SPI3問題集」 高橋書店 価格1,300円＋税金</p> <p>「SPIスピード解法一門一答」 高橋書店 価格1,000円＋税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	15時間
科目	就職実務II				
教員氏名	担任教員	実務経験者			
授業の方法	講義、ワークショップ、小テスト実施				
授業概要	<p>①授業のテーマ 就職についての理解を深め、就職に向けての諸準備を整える。</p> <p>②授業の内容 就職活動前の準備(職業人意識・ビジネス・マナー、ビジネス能力養成)に基づき筆記試験対策、受験アプローチ対策、面接対策を行う。 特に実際の就職試験を想定し、面接訓練、ロールプレイング、グループディスカッションのワークショップを実施する。 多くの企業が採用しているSPIテストの練習に力を入れる。 エントリーシート、履歴書に基づき個別面接指導を実施する。</p> <p>③事前準備学修 特に必要としない</p> <p>④事後展開学修 随時、振り返りの小テストを実施し、履修度合の確認を行う。 期末テストにより全体的な履修度合の確認を行う。</p>				
到達目標	①授業の到達目標は、実際の就職準備(企業研究、業種研究、エントリーシート作成、履歴書作成)を整え、模擬訓練実施の上、企業訪問、入社試験に臨めるようになる。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	面接対策(5)	第一印象・マナー対策		
	2	面接対策(6)	質疑応答対策		
	3	面接対策(7)			
	4	面接対策(8)			
	5	面接対策(9)	個別面接対策・訓練		
	6	面接対策(10)			
	7	面接対策(11)			
	8	面接対策(12)	グループディスカッション対策・訓練		
	9	面接対策(13)			
	10	面接対策(14)			
	11	受験アプローチ対策(1)	企業人事部へのアプローチ対策		
	12	受験アプローチ対策(2)	合同企業説明会への参加		
	13	受験アプローチ対策(3)			
	14	受験アプローチ対策(4)			
	15	就職対応確認	個別面談		
16	期末試験				
テキスト	独自に準備				
参考書	<p>「こう動く!就職活動オールガイド'20年版」 成美堂出版 価格1,100円+税金</p> <p>「専門学校生のための就職内定基本テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター 価格1,200円+税金</p> <p>「SPI3問題集」 高橋書店 価格1,300円+税金</p> <p>「SPIスピード解法一門一答」 高橋書店 価格1,000円+税金</p>				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	15時間
科目	情報処理試験午前対策				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験の午前の問題に対する理解を深めるため講義+小テストにより学生の理解度を図りながら進め、基本情報処理試験への合格を目指す。 対応策の知識を習得する。</p> <p>②基本情報処理試験の主に午前の内容を中心に講義を行い、講義の最後の10分で毎回小テストを行う。</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	情報技術の基礎①	n進数の概念、計算方法を学ぶ		
	2	情報技術の基礎②	ビット演算、シフト演算		
	3	データ構造①	フロー図、制御チャートの作成		
	4	データ構造②	ツリー構造を学ぶ		
	5	アルゴリズム①	データ探索を学ぶ		
	6	アルゴリズム②	再帰処理を学ぶ		
	7	論理回路と論理演算①	論理演算の基礎を学ぶ		
	8	論理回路と論理演算②	ドモルガンの法則等を学び演算を行う		
	9	ハードウェア①	パソコンの概要を学ぶ		
	10	ハードウェア②	CPU、メモリ、入出力装置等の個別の機能・動作を学ぶ		
	11	ソフトウェア①	OSの基礎を学ぶ		
	12	ソフトウェア②	タスク、スケジューリングに関する概念を学ぶ		
13	ソフトウェア③	OS上でのソフトウェアの挙動			

	14	ソフトウェア④	仕組み、APIを学ぶ
	15	前期授業まとめ	前期授業の総まとめを行う
	16	期末試験	
テキスト	「うかる！ 基本情報技術者 [午前編] 2019年版 福嶋先生の集中ゼミ」 著者：福嶋宏訓 出版社：日本経済新聞社 価格：1,728円		
参考書	なし		
評価基準	1. 期末試験による総合評価(60%) 2. 授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	15時間
科目	情報処理試験午前対策				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験の午前の問題に対する理解を深めるため講義＋小テストにより学生の理解度を図りながら進め、基本情報処理試験への合格を目指す。対応策の知識を習得する。前期で網羅しきれなかった内容を中心に講義する。</p> <p>②基本情報処理試験の主に午前の内容を中心に講義を行い、講義の最後の10分で毎回小テストを行う。</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	ネットワーク①	ネットワーク構造の基礎を学ぶ		
	2	ネットワーク②	アドレス形式、LANを学ぶ		
	3	ネットワーク③	OSIモデル、階層構造を学ぶ		
	4	ネットワーク④	通信プロトコルを学ぶ		
	5	セキュリティ①	情報セキュリティの概念		
	6	セキュリティ②	一般的に脅威となるマルウェアや、現在のネットワークに必須な暗号方式を知る。		
	7	データベース①	DBの基礎(RDMS、SQL等)を学ぶ		
	8	データベース②	SQL文の作成方法を学ぶ		
	9	ソフトウェア開発①	ソフトウェア開発のとは？		
	10	ソフトウェア開発②	開発プロセス、オブジェクト指向を学ぶ		
11	ソフトウェア開発③	設計方法(モジュール結合度)			

	12	ソフトウェア開発④	テスト(ST、UT)に関して学ぶ
	13	マネジメント	見積、システム監査、PMBOK
	14	ストラテジ	情報システム、著作権、 経営戦略、法制度
	15	後期まとめ	後期授業のまとめを行う
	16	期末試験	
テキスト	「わかる！ 基本情報技術者 [午前編] 2019年版 福嶋先生の集中ゼミ」 著者：福嶋宏訓 出版社：日本経済新聞社 価格：1,728円		
参考書	なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	45時間
科目	情報処理試験春期対策Ⅰ				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験で出題される技術・情報の中でも特に理解が難しい項目をピックアップし、それぞれ深掘りして理解力を深めることで基本情報処理試験への合格を目指す。 前期で網羅しきれなかった内容を講義する。</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。 この講義で学ぶ項目はデータベース、ネットワーク、セキュリティ</p> <p>③読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。				
授業計画 (45h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	データベース① 「DBの構造」を深く知る①	テーブル構造について学ぶ		
	2	データベース② 「DBの構造」を深く知る②	DBのスキーマ、、テーブルの主キー、インデックスについて学ぶ		
	3	データベース③ 「SQL」を深く知る	SQL、排他制御、DBロックを学ぶ		
	4	データベース④ 「マルチアクセス制御」を深く知る	トランザクション、ロールバック、コミット等DBのレコード制御を学ぶ		
	5	ネットワーク① 「LANとWAN」を深く知る①	ネットワーク機器と基本的なネットワーク構造を学ぶ		
	6	ネットワーク② 「LANとWAN」を深く知る①	LAN、WANの違いやインターネット、イントラネットを学ぶ		
	7	ネットワーク③ 「プロトコル」を深く知る①	プロトコルの基礎を学ぶ		
	8	ネットワーク④ 「プロトコル」を深く知る②	サービスポート番号を学び、ルータとポートの関係を学ぶ		
	9	ネットワーク⑤ 「プロトコル」を深く知る③	実際にプロトコルやポートを指定したネットワークフィルタを実践する		
	10	ネットワーク⑥ 「電子メール」を深く知る	電子メールの基礎を学び、電子メールの送受信の仕組みを学ぶ		
	11	セキュリティを深く知る①	デジタル署名の概念、機能を学ぶ		
12	セキュリティを深く知る②	暗号化の仕組みを学ぶ			

	13	セキュリティを深く知る③	暗号化通信を学ぶ
	14	セキュリティを深く知る④	脆弱性を学ぶ
	15	後期まとめ	後期の授業をまとめる
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」 著者:きたみりゅうじ 出版社:技術評論社 価格:2,138円		
参考書	なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	60時間
科目	情報処理試験秋期対策ⅡA				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理で特に躓きやすい内容をじっくりテーマごとにPCで実際に技術に触れながら理解度を高める。</p> <p>②基本情報の中でも難しく学習に時間のかかる内容をPCを使い、実践・実習を行いながら学習することで、知識の定着を図る。後半では実際の秋期試験の過去問を中心に小テストと解説講義を行う。</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	表面上の知識だけでなく実践を踏まえることで確実に知識を定着させる。				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	論理演算① 環境構築(C言語)と実践	論理演算、AND、OR、XOR、NAND ドモルガンの法則の学習をする		
	2	論理演算② 論理演算とビット演算の実践	論理演算、AND、OR、XOR、NAND ドモルガンの法則、ビット演算を実践する		
	3	文字列処理 環境構築(JAVA)と実践	文字列処理、配列処理を学び、実践する		
	4	データベース① 環境構築(XAMP)と実践	開発環境を構築し、MYSQL、CRUD図を学ぶ		
	5	データベース② データベース設計	データベース設計を学ぶ		
	6	SQL① SQL基礎と実践	SQLの基礎を復習し、実践する		
	7	SQL② テーブル結合(内部、外部)と トランザクション処理	少し複雑なSQL(サブクエリ)やレコード制御(トランザクション、ロールバック、コミット)を学ぶ		
	8	JAVA① 環境構築(JDK)と実践	JDKを学び、JAVAの環境構築とコーディング復習を行う		
	9	JAVA② プログラミング実践	JAVAプログラムを実際に作成し、学ぶ		
	10	アルゴリズム① JAVAを使ってソートプログラミング	アルゴリズムのフローチャート化、プログラム化を実践する		
11	アルゴリズム② 二次元配列を操作して画像編集プログラミング	アルゴリズムのフローチャート化、プログラム化を実践する			

	12	アルゴリズム③ アルゴリズムのフローチャート化とプログラミング	アルゴリズムのフローチャート化、プログラム化を実践する
	13	秋期過去問小テストと解説講義①	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	14	秋期過去問小テストと解説講義②	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	15	秋期過去問小テストと解説講義③	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	16	期末試験	
テキスト	「でるところだけ！基本情報技術者 午後」,著者:橋本祐史,出版社:翔泳社,価格:1,944円		
参考書	「わかる！基本情報技術者 [午後・アルゴリズム編] 2019年版 福嶋先生の集中ゼミ」,著者:福嶋宏訓,出版社:日本経済新聞出版社,価格:1944円		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	60時間
科目	情報処理試験秋期対策ⅡB				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①一年次に学習した内容の復習を密度を高くして繰り返し学習することで、知識として定着させることを目的とする。</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。後半では実際の秋期試験の過去問を中心に小テストと解説講義を行う。</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	<p>・一年次に学習した基本情報処理の講義を復習し、理解度を深める。</p> <p>・1年次よりも期末試験で高得点がとれるように学習を進める。</p>				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	n進数とビット演算の復習	2進数、10進数、16進数、ビット演算の学習をする。		
	2	ネットワーク① LAN、WAN、ネットワーク機器の復習	LAN、WAN、ポート制御等を復習し、知識を深める		
	3	ネットワーク② プロトコル、OSIの復習	TCP/IP、UDP/IP等プロトコルの知識を深める		
	4	システム開発① 開発手法の復習	システム設計、ウォーターフォール、プロトタイプング、スパイラル、アジャイル、RAD、リバースエンジニアリングを復習する		
	5	システム開発② 画面設計・テストの復習	CUI、GUI、チェックデジット、テスト設計を復習する		
	6	各種マネジメントの復習	WBS、SLA、スケジュール管理を学ぶ		
	7	プログラム作成の復習① ・プログラム設計	フローチャート、UML、シーケンス図を復習する		
	8	プログラム作成の復習② ・アルゴリズム	データ探索、ソートを復習し、実践する		
	9	システム可用性の復習	MTTR、MTBF、稼働率を復習する		
	10	電子取引、関連法規の復習	EC取引、SWOT分析、請負、派遣、著作権等の法令を復習する		
11	経営戦略・業務改善 財務会計の復習	経営戦略(PDCA、KJ法、ポートフォリオ)、財務会計(損益分岐点、BS、PL)を復習する			

	12	秋期過去問小テストと解説講義①	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	13	秋期過去問小テストと解説講義②	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	14	秋期過去問小テストと解説講義③	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	15	秋期過去問小テストと解説講義④	秋期過去問を行い、自己採点し解説する
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」,著者:きたみりゅうじ,出版社:技術評論社,価格:2,138円		
参考書	指定なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	30時間
科目	情報処理試験集中講義				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験で出題される技術・情報の中でも特に理解が難しい項目をピックアップし、それぞれ深掘りして理解力を深めることで基本情報処理試験への合格を目指す。 ※「情報処理試験春期対策Ⅰ」で取り上げきれなかった内容を中心に講義する</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。 この講義で学ぶ項目は システム開発、マネジメント、プログラム作成、システム可用性 法規、経営戦略(PDCA)、財務会計</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。 ④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	システム開発① 開発手法を深く知る①	システム設計の概念、方法、使うツール等を学ぶ		
	2	システム開発② 開発手法を深く知る②	設計手法を掘り下げる(アジャイル)		
	3	システム開発③ 開発手法を深く知る③	設計手法を掘り下げる(RAD、リバースエンジニアリング等)		
	4	システム開発④ 画面設計を深く知る	プログラム設計、画面設計を知る(CUI、GUI)		
	5	システム開発⑤ 画面設計を深く知る	チェックデジット等実装時の入力チェック、正規表現等を学ぶ		
	6	システム開発⑥ テストを深く知る	テストの目的、テスト手順(ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト、打鍵)を学ぶ		
	7	システム開発⑦ テストを深く知る	テスト設計、網羅率を学ぶ		
	8	システム可用性を深く知る①	システムの可用性に関する概要を学ぶ		
	9	システム可用性を深く知る②	MTTR、MTBF、シンクライアント、稼働率を向上させるための様々な対策を学ぶ		
10	関連法規を深く知る①	請負、派遣、著作権等法令に関する内容を学ぶ			

	11	関連法規を深く知る②	EC取引を学ぶ
	12	関連法規を深く知る③	SWOT分析、を学ぶ
	13	各種マネジメントを深く知る①	WBS、SLA、スケジュール管理の基礎を学ぶ
	14	各種マネジメントを深く知る②	WBSを実際に作成して学ぶ
	15	授業まとめ	前期授業のまとめを行う
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」 著者:きたみりゅうじ 出版社:技術評論社 価格:2,138円		
参考書	なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	30時間
科目	情報処理試験集中講義				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験で出題される技術・情報の中でも特に理解が難しい項目をピックアップし、それぞれ深掘りして理解力を深めることで基本情報処理試験への合格を目指す。 ※「情報処理試験春期対策Ⅰ」で取り上げきれなかった内容を中心に講義する前期で網羅しきれなかった内容を踏襲する。</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。 この講義で学ぶ項目は システム開発、マネジメント、プログラム作成、システム可用性 法規、経営戦略(PDCA)、財務会計</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。 ④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	プログラム作成① プログラミング言語を深く知る	プログラム作成環境の構築、プログラム作成の基礎を学ぶ		
	2	プログラム作成② プログラム設計を深く知る①	フローチャートの書き方を学ぶ		
	3	プログラム作成③ プログラム設計を深く知る②	UML、シーケンス図の書き方を学ぶ		
	4	プログラム作成④ プログラム設計を深く知る③	ユースケースの目的と書き方を学ぶ		
	5	プログラム作成⑤ オブジェクト指向プログラミングを深く知る①	オブジェクト指向の基礎を学ぶ		
	6	プログラム作成⑥ オブジェクト指向プログラミングを深く知る②	カプセル化、結合度、クラス、インスタンスを学ぶ		
	7	アルゴリズム①	アルゴリズムの基礎、アルゴリズムの書き方(フローチャート)を学ぶ		
	8	アルゴリズム②	実際に「データ探索」のアルゴリズムをフローチャート化しプログラムする		
	9	アルゴリズム③	実際に「ソート」のアルゴリズムをフローチャート化しプログラムする		
10	経営戦略・業務改善①	経営戦略に使われる手法(KJ法、ポートフォリオ)を学ぶ ブレインストーミング			

	11	経営戦略・業務改善②	PDCAサイクルを学び、実践する。
	12	財務会計を深く知る①	財務会計の基礎を学ぶ。
	13	財務会計を深く知る②	損益分岐点について学習する。
	14	財務会計を深く知る③	決算書の読み方を学ぶ(BS、PL)
	15	授業まとめ	後期の授業のまとめを実施
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」 著者:きたみりゅうじ 出版社:技術評論社 価格:2,138円		
参考書	なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	45時間
科目	情報処理試験春期対策 I				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験で出題される技術・情報の中でも特に理解が難しい項目をピックアップし、それぞれ深掘りして理解力を深めることで基本情報処理試験への合格を目指す。</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。</p> <p>この講義で学ぶ項目は n進数、論理回路、デジタルデータ、CPU、インターフェース</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	<p>・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。</p>				
授業計画 (45h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	n進数を深く知る①	n進の基礎と概念について学ぶ		
	2	n進数を深く知る②	n進数、基数変換を実践しながら学ぶ		
	3	n進数を深く知る③	ベン図、ドモルガンの定理を学ぶ		
	4	論理回路を深く知る①	論理演算と論理回路を実践しながら学ぶ (AND、OR、NOT)		
	5	論理回路を深く知る②	論理演算と論理回路を実践しながら学ぶ (NAND、XOR)		
	6	論理回路を深く知る③	少し複雑な論理演算を学ぶ		
	7	デジタルデータを深く知る ビットデータでマルチメディア データを表現するには？	マルチメディアデータとデータの関係性を学		
	8	デジタルデータを深く知る ビットデータでマルチメディア データを表現するには？	実際にビットマップ画像をプログラムで 読み込ませ、実践する。		
	9	CPUを深く知る①	CPUの基礎動作、レジスタ、アドレッシング を学ぶ		
	10	CPUを深く知る②	機械語を使って実際の演算時の 動作を学ぶ		
11	インターフェースを深く知る①	インターフェースの例を知り、具体的なイ ンターフェース(入出力装置 パラレルインターフェース、 シリアルインターフェース)を学習する			

	12	インターフェースを深く知る②	シリアルインターフェースを実際にPCを使って学習する。
	13	記憶装置を深く知る	RAID構成、ハードディスク構造を学習する
	14	ファイル管理を深く知る	ファイル形式、ディレクトリ構造、相対パス、絶対パス等の基礎を学ぶ
	15	前期まとめ	前期の授業のまとめを行う
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」 著者:きたみりゅうじ 出版社:技術評論社 価格:2,138円		
参考書	なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	45時間
科目	情報処理試験春期対策 I				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理試験で出題される技術・情報の中でも特に理解が難しい項目をピックアップし、それぞれ深掘りして理解力を深めることで基本情報処理試験への合格を目指す。 前期で網羅しきれなかった内容を講義する。</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。 この講義で学ぶ項目は データベース、ネットワーク、セキュリティ</p> <p>③読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	・基本情報処理の午前問題に対してよく理解をし、実際の試験で合格点がだせるようにする。				
授業計画 (45h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	データベース① 「DBの構造」を深く知る①	テーブル構造について学ぶ		
	2	データベース② 「DBの構造」を深く知る②	DBのスキーマ、、テーブルの主キー、インデックスについて学ぶ		
	3	データベース③ 「SQL」を深く知る	SQL、排他制御、DBロックを学ぶ		
	4	データベース④ 「マルチアクセス制御」を深く知る	トランザクション、ロールバック、コミット等DBのレコード制御を学ぶ		
	5	ネットワーク① 「LANとWAN」を深く知る①	ネットワーク機器と基本的なネットワーク構造を学ぶ		
	6	ネットワーク② 「LANとWAN」を深く知る①	LAN、WANの違いやインターネット、イントラネットを学ぶ		
	7	ネットワーク③ 「プロトコル」を深く知る①	プロトコルの基礎を学ぶ		
	8	ネットワーク④ 「プロトコル」を深く知る②	サービスポート番号を学び、ルータとポートの関係を学ぶ		
	9	ネットワーク⑤ 「プロトコル」を深く知る③	実際にプロトコルやポートを指定したネットワークフィルタを実践する		
	10	ネットワーク⑥ 「電子メール」を深く知る	電子メールの基礎を学び、電子メールの送受信の仕組みを学ぶ		
	11	セキュリティを深く知る①	デジタル署名の概念、機能を学ぶ		
12	セキュリティを深く知る②	暗号化の仕組みを学ぶ			

	13	セキュリティを深く知る③	暗号化通信を学ぶ
	14	セキュリティを深く知る④	脆弱性を学ぶ
	15	後期まとめ	後期の授業をまとめる
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」 著者:きたみりゅうじ 出版社:技術評論社 価格:2,138円		
参考書	なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	60時間
科目	情報処理試験春期対策ⅡA				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯	実務経験者/実務経験無			
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①基本情報処理で特に躓きやすい内容をじっくりテーマごとにPCで実際に技術に触れながら理解度を高める。</p> <p>②基本情報の中でも難しく学習に時間のかかる内容をPCを使い、実践・実習を行いながら学習することで、知識の定着を図る。後半では実際の春期試験の過去問を中心に小テストと解説講義を行う。</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	表面上の知識だけでなく実践を踏まえることで確実に知識を定着させる。				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	論理演算① 環境構築(C言語)と実践	論理演算、AND、OR、XOR、NAND ドモルガンの法則の学習をする		
	2	論理演算② 論理演算とビット演算の実践	論理演算、AND、OR、XOR、NAND ドモルガンの法則、ビット演算を実践する		
	3	文字列処理 環境構築(JAVA)と実践	文字列処理、配列処理を学び、実践する		
	4	データベース① 環境構築(XAMP)と実践	開発環境を構築し、MYSQL、CRUD図を学ぶ		
	5	データベース② データベース設計	データベース設計を学ぶ		
	6	SQL① SQL基礎と実践	SQLの基礎を復習し、実践する		
	7	SQL② テーブル結合(内部、外部)と トランザクション処理	少し複雑なSQL(サブクエリ)やレコード制御(トランザクション、ロールバック、コミット)を学ぶ		
	8	JAVA① 環境構築(JDK)と実践	JDKを学び、JAVAの環境構築とコーディング復習を行う		
	9	JAVA② プログラミング実践	JAVAプログラムを実際に作成し、学ぶ		
	10	アルゴリズム① JAVAを使ってソートプログラミング	アルゴリズムのフローチャート化、プログラム化を実践する		
11	アルゴリズム② 二次元配列を操作して画像編集プログラミング	アルゴリズムのフローチャート化、プログラム化を実践する			

	12	アルゴリズム③ アルゴリズムのフローチャート化とプログラミング	アルゴリズムのフローチャート化、プログラム化を实践する
	13	春期過去問小テストと解説講義①	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	14	春期過去問小テストと解説講義②	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	15	春期過去問小テストと解説講義③	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	16	期末試験	
テキスト	「でるとこだけ！基本情報技術者 午後」,著者:橋本祐史,出版社:翔泳社,価格:1,944円		
参考書	「わかる！基本情報技術者 [午後・アルゴリズム編] 2019年版 福嶋先生の集中ゼミ」,著者:福嶋宏訓,出版社:日本経済新聞出版社,価格:1944円		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	選択	授業時間数	60時間
科目	情報処理試験春期対策ⅡB				
教員氏名	焦 岩、南 薫伯				
授業の方法	講義				
授業概要	<p>①一年次に学習した内容の復習を密度を高くして繰り返し学習することで、知識として定着させることを目的とする。</p> <p>②基本情報処理試験で出題される内容の項目をそれぞれ深掘りした講義を行い、理解力を深めることを目的とする。後半では実際の春期試験の過去問を中心に小テストと解説講義を行う。</p> <p>③教科書を読み進めておくこと。</p> <p>④授業で聞いた内容を教科書で照らし合わせ復習しておく。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次に学習した基本情報処理の講義を復習し、理解度を深める。 ・1年次よりも期末試験で高得点がとれるように学習を進める。 				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	n進数とビット演算の復習	2進数、10進数、16進数、ビット演算の学習をする。		
	2	ネットワーク① LAN、WAN、ネットワーク機器の復習	LAN、WAN、ポート制御等を復習し、知識を深める		
	3	ネットワーク② プロトコル、OSIの復習	TCP/IP、UDP/IP等プロトコルの知識を深める		
	4	システム開発① 開発手法の復習	システム設計、ウォーターフォール、プロトタイプング、スパイラル、アジャイル、RAD、リバースエンジニアリングを復習する		
	5	システム開発② 画面設計・テストの復習	CUI、GUI、チェックデジット、テスト設計を復習する		
	6	各種マネジメントの復習	WBS、SLA、スケジュール管理を学ぶ		
	7	プログラム作成の復習① ・プログラム設計	フローチャート、UML、シーケンス図を復習する		
	8	プログラム作成の復習② ・アルゴリズム	データ探索、ソートを復習し、実践する		
	9	システム可用性の復習	MTTR、MTBF、稼働率を復習する		
	10	電子取引、関連法規の復習	EC取引、SWOT分析、請負、派遣、著作権等の法令を復習する		
11	経営戦略・業務改善 財務会計の復習	経営戦略(PDCA、KJ法、ポートフォリオ)、財務会計(損益分岐点、BS、PL)を復習する			

	12	春期過去問小テストと解説講義①	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	13	春期過去問小テストと解説講義②	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	14	春期過去問小テストと解説講義③	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	15	春期過去問小テストと解説講義④	春期過去問を行い、自己採点し解説する
	16	期末試験	
テキスト	「キタミ式イラストIT塾平成31/01年(2019)基本情報技術者」,著者:きたみりゆうじ,出版社:技術評論社,価格:2,138円		
参考書	指定なし		
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	60時間
科目	卒業研究				
教員氏名	大津 崇/焦 岩	実務経験者/実務経験無			
授業の方法	講義、個別指導、発表				
授業概要	卒業研究は、具体的な研究課題に対して問題を解決する手法を発見し、それを工学的に実現する能力、さらに得られた成果をわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。研究の最終的な目標を実現するために、具体的な問題の解決を実践する。さらに、結果を自分以外の人にわかりやすく説明するために、研究の結果を整理して論文にまとめる。				
到達目標	<p>(1) 関連知識や関連研究を学習・調査し、問題解決に向けたプロセスを自ら組み立て、種々の方策を施行する。</p> <p>(2) 卒業研究のテーマ設定にそって、研究を完成させる。</p> <p>(3) 研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、卒業論文発表会においてその成果を発表する。</p> <p>上記の目標のために、情報分野の研究者・技術者として求められる下記の能力を習得することを目標とする。</p> <p>① 自分で研究環境の構築・整備ができる能力。</p> <p>② 関連分野の基礎知識と、関連研究を調査する能力。</p> <p>③ 問題発見能力・問題分析能力・問題解決能力。</p> <p>④ ドキュメンテーション能力とプレゼンテーション能力。</p> <p>⑤ 自ら計画を立て、実行する自己管理能力。</p>				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ		概要/キーワード	
	1	個別指導(第1回)(1)		提出を求める卒論まえがき部分の添削内容に基づいた個別指導	
	2	個別指導(第1回)(2)		提出を求める卒論まえがき部分の添削内容に基づいた個別指導	
	3	システム構成の相談(1)		システムの構成方法についての個別相談会	
	4	システム構成の相談(2)		システムの構成方法についての個別相談会	
	5	進捗報告(第1回)(1)		テーマの位置づけに関する進捗プレゼンテーション	
	6	進捗報告(第1回)(2)		テーマの位置づけに関する進捗プレゼンテーション	
	7	個別指導(第2回)(1)		プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など	
	8	個別指導(第2回)(2)		プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など	
	9	システム構築に関する指導(1)		システム構築に関する諸手法に関する個別指導	

	10	システム構築に関する指導 (2)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導
	11	システム構築に関する指導 (3)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導
	12	システム構築に関する指導 (4)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導
	13	進捗報告(第2回)(1)	システム構築状況に関する報告会
	14	進捗報告(第2回)(2)	システム構築状況に関する報告会
	15	中間発表	
テキスト	個別に指導する。		
参考書	個別に指導する。		
評価基準	<p>1.評価は、指導教員が、各人のテーマにあわせて適した内容を適した順序で個別に指導した上で、以下の基準で実施する。</p> <p>(1) 基礎知識：研究を遂行するために必要な知識を有しているか、など。</p> <p>(2) 調査能力：背景知識を有しているか、自分の研究の位置づけを理解しているか、など。</p> <p>(3) 問題発見：分析・解決能力：課題が明確になっているか、十分な事前評価を行ったか、自発的にアイデアを出したか、など。</p> <p>(4) 計画・実行能力：実験計画などの自発的提案があったか、研究・開発手段の整備に積極的に取り組んだか、共同研究者との協力関係を効果的に行ったか、など。</p> <p>(5) 研究の貢献内容：研究・開発の成果が認められるか、将来の課題や展望などが述べられているか、など。</p> <p>(6) 表現能力：論理が明確か、文章の記述・図表の使用は適切か、質疑応答は的確に行えたか、など。</p> <p>(7) 自己管理能力：自ら研究計画を立て、それを着実に遂行したか、など。</p> <p>(8) 平常点：研究への取り組み態度、輪講・ディスカッションへの出席状況、ディスカッションへの参加、など。</p> <p>2.システム構築内容による総合評価(70%)</p> <p>3.出席率(30%)</p>		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	60時間
科目	卒業研究				
教員氏名	大津 崇/焦 岩	実務経験者/実務経験無			
授業の方法	講義、個別指導、発表				
授業概要	卒業研究は、具体的な研究課題に対して問題を解決する手法を発見し、それを工学的に実現する能力、さらに得られた成果をわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。研究の最終的な目標を実現するために、具体的な問題の解決を実践する。さらに、結果を自分以外の人にわかりやすく説明するために、研究の結果を整理して論文にまとめる。				
到達目標	<p>(1) 関連知識や関連研究を学習・調査し、問題解決に向けたプロセスを自ら組み立て、種々の方策を施行する。</p> <p>(2) 卒業研究のテーマ設定にそって、研究を完成させる。</p> <p>(3) 研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、卒業論文発表会においてその成果を発表する。</p> <p>上記の目標のために、情報分野の研究者・技術者として求められる下記の能力を習得することを目標とする。</p> <p>① 自分で研究環境の構築・整備ができる能力。</p> <p>② 関連分野の基礎知識と、関連研究を調査する能力。</p> <p>③ 問題発見能力・問題分析能力・問題解決能力。</p> <p>④ ドキュメンテーション能力とプレゼンテーション能力。</p> <p>⑤ 自ら計画を立て、実行する自己管理能力。</p>				
授業計画 (60h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	個別指導(第3回)(1)	プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など		
	2	個別指導(第3回)(2)	プレゼンにおいて指摘される問題点に関する指導など		
	3	システム構築に関する指導(1)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	4	システム構築に関する指導(2)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	5	システム構築に関する指導(3)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	6	システム構築に関する指導(4)	システム構築に関する諸手法に関する個別指導		
	7	被験者実験に関する指導(1)	システム評価のための調査・実験手法の指導		
	8	被験者実験に関する指導(2)	システム評価のための調査・実験手法の指導		
	9	論文作成指導(1)	卒業論文の書き方に関する指導		

	10	論文作成指導(2)	卒業論文の書き方に関する指導
	11	進捗報告(第3回)(1)	システムのデモの公開
	12	進捗報告(第3回)(2)	システムのデモの公開
	13	評価方法の指導(1)	各自のシステムの評価方法についての個別指導
	14	評価方法の指導(2)	各自のシステムの評価方法についての個別指導
	15	発表	
テキスト	個別に指導する。		
参考書	個別に指導する。		
評価基準	<p>1.評価は、指導教員が、各人のテーマにあわせて適した内容を適した順序で個別に指導した上で、以下の基準で実施する。</p> <p>(1) 基礎知識: 研究を遂行するに必要な知識を有しているか、など。</p> <p>(2) 調査能力: 背景知識を有しているか、自分の研究の位置づけを理解しているか、など。</p> <p>(3) 問題発見: 分析・解決能力: 課題が明確になっているか、十分な事前評価を行ったか、自発的にアイデアを出したか、など。</p> <p>(4) 計画・実行能力: 実験計画などの自発的提案があったか、研究・開発手段の整備に積極的に取り組んだか、共同研究者との協力関係を効果的に行ったか、など。</p> <p>(5) 研究の貢献内容: 研究・開発の成果が認められるか、将来の課題や展望などが述べられているか、など。</p> <p>(6) 表現能力: 論理が明確か、文章の記述・図表の使用は適切か、質疑応答は的確に行えたか、など。</p> <p>(7) 自己管理能力: 自ら研究計画を立て、それを着実に遂行したか、など。</p> <p>(8) 平常点: 研究への取り組み態度、輪講・ディスカッションへの出席状況、ディスカッションへの参加、など。</p> <p>2.発表内容による総合評価(70%)</p> <p>3.出席率(30%)</p>		

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	日本の産業構造				
教員氏名	加賀 博	実務経験者			
授業の方法	講義で必要な知識・情報提供によって、理解を深め、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなど講師と学生同士が共同し、双方向的にかつ実践的に学習する。				
授業概要	<p>①授業の内容 今日、日本の産業社会はグローバル化の必要により国内外ともに競争が激化している。業界内の変化も多様化し新しい業種、ビジネスモデルが創造され、こうしたグローバル時代の職業、業界の内容を具体的にわかりやすく実践的研究方法を指導し、進路形成に役立たせる。</p> <p>②準備学習等の指示 次回講義する教科書の範囲を事前に確認し、最近のニュースを経済新聞、経済雑誌などを利用し、要約しておく。事前確認は、おおよそ30分程度要する。 また、授業内容を再学習し、授業内容を徹理解する。また、学んだことを実生活で意識して過ごし、活かすようにする。事後確認は、おおよそ30分程度の時間を要する。</p>				
到達目標	本授業は、業界・業種別のビジネスモデルの内容とその実践的研究方法を具体的にわかりやすく解説・指導し、学生の進路形成に役立たせることを目標とする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	日本経済を取りまく環境、社会インフラ、石油、電力業界の役割と特性	<p>【全授業共通】 ①アクティブラーニングとして、スマホを活用し、自己研究したことを授業毎に、指示されたフォーマットに書き込む。 ②「自己チェックレポート」により、授業に対する授業傾注度(授業で学んだこと、気付いたこと、修得したことなどを簡潔にまとめ、自己評価し、総合コメントをする。</p>		
	2	プラント、不動産、住宅、鉄道、陸運業界の役割と特性			
	3	航空業界、海運業界、倉庫物流、通信・インターネット業界の役割と特性			
	4	IT、ソフトウェア、鉄鋼・非鉄金属、化学、ガラス・セメント業界の役割と特性			
	5	ゴムタイヤ・紙・パルプ、繊維、コンピュータ・電子部品、OA機器・家電業界の役割と特性			
	6	工作機械、自動車、造船・重機、化粧品・トイレタリー業界の役割と特性			
	7	食品・飲料、製薬、作ったものを我々に営業販売する流通小売、スーパー、コンビニ業界の役割と特性			
	8	アパレル、専門量販店、ディスカウント、通信販売、我々の生活を便利で豊かにするサービス業界の役割と特性			
	9	フードサービス、旅行、レジャー、ホテル業界の役割と特性			
	10	マスコミ、出版、放送、広告業界の役割と特性			
	11	印刷、商社、シルバービジネス、教育業界の役割と特性			
	12	人材ビジネス、コンサルティング、ゲーム、産業・社会に必要なお金の運用に関する金融業界の役割と特性			
	13	銀行、証券、保険、クレジット業界の役割と特性			
	14	消費者金融、リース・レンタルの役割と特性、日本の経済・産業を支える政治構造、三権分立、民主党			
	15	国会のしくみ、内閣と省庁のしくみ、自分に興味を持った産業のまとめ、発表、グループワーク			
	16	期末試験			
テキスト	「ビジネス基本力to将来力(学生と若手ビジネスパーソンのキャリア形成ハンドブック)」 著者:加賀 博(公益財団法人日本生産性本部生産性労働情報センター 発行)				
参考書	特に無し				
評価基準	1.毎授業に作成する自己チェックレポート課題と取り組み(40%) 2.期末に行う筆記試験(60%) 上記を総合的に加味し、科目担当者が評価する。				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	日本の企業構造				
教員氏名	加賀 博	実務経験者			
授業の方法	講義で必要な知識・情報提供によって、理解を深め、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなど講師と学生同士が共同し、双方向的にかつ実践的に学習する。				
授業概要	<p>①授業の内容 今日、日本の産業社会はグローバル化の必要により国内外ともに競争が激化、多様化している。こうしたグローバル時代の企業の組織及び仕事の内容を具体的にわかりやすく実践的研究方法を指導し、進路形成に役立たせる。</p> <p>②準備学習等の指示 次回講義する教科書の範囲を事前に確認し、最近のニュースを経済新聞、経済雑誌などを利用し、要約しておく。事前確認は、おおよそ30分程度要する。 また、授業内容を教科書で再学習し、授業内容を徹底理解する。また、学んだことを実生活で意識して過ごし、活かすようにする。事後確認は、おおよそ30分程度の時間を要する。</p>				
到達目標	本授業は、日本の代表企業の組織及び仕事内容また、それに必要とされる資格などの内容とその実践的研究方法を具体的にわかりやすく解説・指導し、学生の進路形成に役立たせることを目標とする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ			概要/キーワード
	1	日本の代表企業の組織イメージ			<p>【全授業共通】</p> <p>①アクティブラーニングとして、スマホを活用し、自己研究したことを授業毎に、指示されたフォーマットに書き込む。</p> <p>②「自己チェックレポート」により、授業に対する授業傾注度(授業で学んだこと、気付いたこと、修得したことなど)を簡潔にまとめ、自己評価し、総合コメントをする。</p>
	2	経営理念の重要性と内容			
	3	株主総会の役割と責任			
	4	取締役会の役割と責任及び代表取締役の重要性及び役割と責任			
	5	経営企画部の仕事内容			
	6	財務部の仕事内容			
	7	経理部の仕事内容			
	8	総務人事部の仕事内容			
	9	情報システム部の仕事内容			
	10	製造部の仕事内容			
	11	研究開発部の仕事内容			
	12	仕入部の仕事内容			
	13	店舗運営部の仕事内容			
	14	営業販売部の仕事内容、			
	15	従業員として働くための基本(権利と義務)			
	16	期末試験			
テキスト	「ビジネス基本力to将来力」(学生と若手ビジネスパーソンのキャリア形成ハンドブック) 著者:加賀 博(公益財団法人日本生産性本部生産性労働情報センター 発行)				
参考書	その都度、経済ニュースなど				
評価基準	1.毎授業に作成する自己チェックレポート課題と取り組み(40%) 2.期末に行う筆記試験(60%) 上記を総合的に加味し、科目担当者が評価する。				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	30時間
科目	日本の代表企業と仕事構造				
教員氏名	石井 このみ				
授業の方法	講義で必要な知識・情報提供によって、理解を深め、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなど講師と学生同士が共同し、双方向的にかつ実践的に学習する。				
授業概要	<p>①授業の内容 今日、日本の産業社会はグローバル化の必要により国内外ともに競争が激化している。業界内の変化も多様化し新しい業界、業種、企業が創造され、こうしたグローバル時代の代表企業の内容と仕事内容のポイントを具体的にわかりやすく実践的研究方法を指導し、進路形成に役立たせる。</p> <p>②準備学習等の指示 次回講義する教科書の範囲を事前に確認し、最近のニュースを経済新聞、経済雑誌などを利用し、要約しておく。事前確認は、おおよそ30分程度要する。 また、授業内容を教科書で再学習し、授業内容を徹底理解する。また、学んだことを実生活で意識して過ごし、活かすようにする。事後確認は、おおよそ30分程度の時間を要する。</p>				
到達目標	本授業は、業界・業種別の代表企業及び職種、資格の内容とその実践的研究方法を具体的にわかりやすく解説・指導し、学生の進路形成に役立たせることを目標とする。				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ			概要/キーワード
	1	日本経済を取りまく環境、社会インフラ、石油、電力業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			<p>【全授業共通】</p> <p>①アクティブラーニングとして、スマホを活用し、自己研究したことを授業毎に、指示されたフォーマットに書き込む。</p> <p>②「自己チェックレポート」により、授業に対する授業傾注度(授業で学んだこと、気付いたこと、修得したことなど)を簡潔にまとめ、自己評価し、総合コメントをする。</p>
	2	プラント、不動産、住宅、鉄道、陸運業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	3	航空業界、海運業界、倉庫物流、通信・インターネット業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	4	IT、ソフトウェア、鉄鋼・非鉄金属、化学、ガラス・セメント業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	5	ゴムタイヤ・紙・パルプ、繊維、コンピュータ・電子部品、OA機器・家電業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	6	工作機械、自動車、造船・重機、化粧品・トイレタリー業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	7	食品・飲料、製菓、作ったものを我々に営業販売する流通小売、スーパー、コンビニ業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	8	アパレル、専門量販店、ディスカウント、通信販売、我々の生活を便利で豊かにするサービス業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	9	フードサービス、旅行、レジャー、ホテル業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	10	マスコミ、出版、放送、広告業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	11	印刷、商社、シルバービジネス、教育業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	12	人材ビジネス、コンサルティング、ゲーム、産業・社会に必要なお金の運用に関する金融業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	13	銀行、証券、保険、クレジット業界の代表企業の内容と仕事内容のポイント			
	14	消費者金融、リース・レンタルの代表企業の内容と仕事内容のポイント、日本の経済・産業を支える政治構造、三権分立、民主主義			
	15	国会のしくみ、内閣と省庁のしくみ、自分に興味を持った産業のまとめ、発表、グループワーク			
	16	期末試験			
テキスト	「ビジネス基本力to将来力(学生と若手ビジネスパーソンのキャリア形成ハンドブック)」 著者：加賀 博(公益財団法人日本生産性本部生産性労働情報センター 発行)				
参考書	特に無し				
評価基準	1.毎授業に作成する自己チェックレポート課題と取り組み(40%) 2.期末に行う筆記試験(60%) 上記を総合的に加味し、科目担当者が評価する。				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	日本語プログラミング(HCPチャート作成)				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①プログラムの設計と可読性の高いPYTHONプログラムの作成法を学ぶ ②目的を手段に展開する設計図法HCPチャートを使ったPYTHONプログラミングを学ぶ ③事前に教科書等を予習して、授業は質問と議論を行なう反転授業を原則とする。予習では、理解がむずかしかった点を明らかにして授業に臨む。授業中は学習内容を何故学ぶかを討論を通じて理解する。 ④授業で学んだ内容をレポートにまとめ、感想とともに次回授業の2日前までに提出する。</p>				
到達目標	<p>・HCPチャートを使って作りたいプログラムの設計ができるようになる ・Python 言語で基本的なプログラムを作ることができるようになる</p>				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	簡単なPYTHONプログラム	文字の入出力を行なう		
	2	目的と手段の関係	HCPチャートによるプログラム設計		
	3	不定回数の繰り返し	while文を学ぶ		
	4	複雑な条件	and, or, not について学ぶ		
	5	繰り返し中の中途脱出	if文を使ったループ脱出を学ぶ		
	6	一定回数の繰り返し	for文を学ぶ		
	7	最大値、最小値を求める	多数の整数の中から最大値、最小値を見つける		
	8	ヒストグラムを作る	度数分布をヒストグラムで表わす		
	9	データ集合	リスト構造を学ぶ		
	10	整列(ソート)	ランダムな数を順に並べる		
	11	関数と戻り値Ⅰ	出力プログラムを関数で表現する		
	12	関数と戻り値Ⅱ	入力プログラムを関数で表現する		
	13	関数の利用	パラメータを使った関数呼び出しを学ぶ		
	14	オブジェクト指向	オブジェクトとクラスを学ぶ		
	15	まとめ	全体の振り返り		
16	期末試験				
テキスト	クオリティ PYTHON プログラミング,著者:小林真輔、竹田尚彦,(株)タイムレスエデュケーション				
参考書	指定なし				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	2年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	日本語プログラミング(HCPチャート作成)				
教員氏名	大津 崇	実務経験者			
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①プログラムの再利用と進化について学ぶ</p> <p>②クオリティーPYTHON プログラミングⅠの続きとして与えられた住所録プログラムを利用して家計簿を作る。続いてファイル機能のついた住所録プログラムを元にファイル機能のついた住所録プログラムを作る。最後に構造体を使った住所録を元に構造体を使った住所録を作る。これらの演習を通じて、プログラムの進化を学ぶ。</p> <p>③事前に教科書等を予習して、授業は質問と議論を行なう反転授業を原則とする。予習では、理解がむずかしかった点を明らかにして授業に臨む。授業中は学習内容を何故学ぶかを討論を通じて理解する。</p> <p>④授業で学んだ内容をレポートにまとめ、感想とともに次回授業の2日前までに提出する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの再利用を通じて、プログラムの抽象構造を理解する プログラムが進化していく過程を体験する オブジェクト指向概念の基礎を理解する 				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	PYTHON言語の概要	前期の復習をする		
	2	住所録プログラムの理解Ⅰ	解読して使用してみる		
	3	金銭出納帳の設計Ⅰ	仕様を作りHCPチャートで設計する		
	4	金銭出納帳の実現Ⅰ	設計した出納帳を作る		
	5	住所録プログラムの理解Ⅱ	データの追加とページング処理を解読		
	6	金銭出納帳の設計Ⅱ	追加機能の設計をする		
	7	金銭出納帳の実現Ⅱ	機能追加した出納帳を作る		
	8	住所録プログラムの理解Ⅲ	クラス概念を使ったプログラムを解読する		
	9	金銭出納帳の設計Ⅲ	クラスを使って設計する		
	10	金銭出納帳の実現Ⅲ	オブジェクト指向で実現する		
	11	作りたい作品の検討	何を作るかを考える		
	12	仕様と設計	作る作品の仕様を決め設計する		
	13	実現	実現		
	14	評価	作ったプログラムの目的達成度を評価する		
	15	まとめ	作った作品の発表会を行なう		
16	期末試験				
テキスト	指定なし				
参考書	指定なし				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	日本語プログラミングの演習とCodeMonkey				
教員氏名	飯箸 泰宏				
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①プログラミングの基本事項を日本語を通じて学ぶ。正確な日本語で書かれたプログラム(日本語プログラミング言語「言霊」で書かれている)を書いたり読んだりすることを通じて正確な日本語を使えるようにする。</p> <p>②プログラミング入門のネット教材 CodeMonkey を使って、プログラミングの基本を学ぶ。その後、正確な日本語で書かれた日本語プログラミング言語「言霊」の使用を通じてプログラミングに必要な日本語の能力を高める。</p> <p>③事前に教科書等を予習して、授業は質問と議論を行なう反転授業を原則とする。予習では、理解がむずかしかった点を明らかにして授業に臨む。授業中は学習内容を何故学ぶかを討論を通じて理解する。</p> <p>④授業で学んだ内容をレポートにまとめ、感想とともに次回授業の2日前までに提出する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> CodeMonkey で学ぶ Coffee Script 言語で簡単な問題解決が行なえるようになる 日本語プログラミング言語「言霊」で簡単なプログラムが書けるようになる 				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	CodeMonkey1-5	CodeMonkeyノプラットフォームに慣れる		
	2	CodeMonkey6-10	サルの向きを変える		
	3	CodeMonkey11-15	サルを目的物の方に向ける		
	4	CodeMonkey16-20	池の亀を利用する		
	5	CodeMonkey21-25	同じ仕事を繰り返す		
	6	CodeMonkey26-30	ループとインデント記法		
	7	CodeMonkey31-35	変数と代入を理解する		
	8	CodeMonkey36-40	対象物までの距離を測る		
	9	言霊の基本	プラットフォームに慣れる		
	10	言霊プログラムの基本	三角形と四角形で家を描く		
	11	言霊の基本命令	多角形、星形を描く		
	12	言霊の変数と計算式	計算式と代入を使って計算する		
	13	言霊の条件分岐	条件式の評価を使って条件分岐ができる		
	14	言霊の繰り返し	繰り返しの実行過程を理解する		
	15	まとめ	全体の振り返りとまとめ		
16	期末試験				
テキスト	CodeMonkey https://codemonkey.jp/ 、タートルと言霊で学ぶ論理思考とプログラミング				
参考書	http://okaken.sakura.ne.jp/kotodama-in-sfc/TurtleCafeForKotodama2010/TurtleCafe/html4/index.html				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必須	授業時間数	30時間
科目	日本語プログラミングの演習とCodeMonkey				
教員氏名	飯簀 泰宏				
授業の方法	講義と演習				
授業概要	<p>①プログラミングの基本事項を日本語を通じて学ぶ。正確な日本語で書かれたプログラム(日本語プログラミング言語「言霊」で書かれている)を書いたり読んだりすることを通じて正確な日本語を使えるようにする。</p> <p>②プログラミング入門のネット教材 CodeMonkey を使って、プログラミングの基本を学ぶ。その後、正確な日本語で書かれた日本語プログラミング言語「言霊」の使用を通じてプログラミングに必要な日本語の能力を高める。</p> <p>③事前に教科書等を予習して、授業は質問と議論を行なう反転授業を原則とする。予習では、理解がむずかしかった点を明らかにして授業に臨む。授業中は学習内容を何故学ぶかを討論を通じて理解する。</p> <p>④授業で学んだ内容をレポートにまとめ、感想とともに次回授業の2日前までに提出する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> CodeMonkey で学ぶ Coffee Script 言語で問題解決が行なえるようになる 日本語プログラミング言語「言霊」でプログラムが書けるようになる 				
授業計画 (30h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	CodeMonkey41-45	変数、関数とその値、対象物への距離(復習)		
	2	CodeMonkey46-55	配列を使う		
	3	CodeMonkey56-65	for ループを使う		
	4	CodeMonkey66-70	for ループを使う(続き)		
	5	CodeMonkey71-85	関数を作ってそれを使う		
	6	CodeMonkey86-100	ループの終了条件と入れ子構造を学ぶ		
	7	言霊	先学期の復習		
	8	言霊における入れ子構造	ブロックの入れ子構造を学ぶ		
	9	言霊のCUIプログラム	文字インターフェース・プログラムを学ぶ		
	10	言霊のCUIプログラム	CUIプログラムを作る		
	11	言霊のオブジェクト生成	複数の亀を作る		
	12	アニメーション入門	アニメーションの基本を学ぶ		
	13	アニメーション入門(続)	パラバハラ漫画を作る		
	14	アニメーション入門(続々)	ゲームを作る		
	15	まとめ	全体の振り返りとまとめ		
16	期末試験				
テキスト	CodeMonkey https://codemonkey.jp/ 、タートルと言霊で学ぶ論理思考とプログラミング				
参考書	http://okaken.sakura.ne.jp/kotodama-in-sfc/TurtleCafeForKotodama2010/TurtleCafe/html4/index.html				
評価基準	<p>1.期末試験による総合評価(60%)</p> <p>2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)</p>				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	前期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	15時間
科目	簿記基礎				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ 複式簿記について学習する。簿記上の取引を、借方と貸方に分けて記帳する技術を身につける。複式簿記の基本原則、簿記一巡の手続を学習し、簿記・会計学の基本的な事項を理解することを目的とする。</p> <p>②授業の内容 Excel を使って元帳、振替伝票、試算表を実装します。</p> <p>③事前準備学修 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 配布した資料中の問題を解き、理解を深めてください。疑問点は常に明確にしておくこと。</p>				
到達目標	日商簿記3級程度の記帳技術を習得する。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	チュートリアル	簿記の基本的考え方・目的・種類		
	2	貸借対照表と損益計算書(1)	資産・負債・資本と貸借対照表および収益・費用・純損益と損益計算書		
	3	貸借対照表と損益計算書(2)			
	4	貸借対照表と損益計算書(3)			
	5	取引仕訳(1)	取引および仕訳と勘定への転記		
	6	取引仕訳(2)			
	7	取引仕訳(3)			
	8	現金預金(1)	現金および預金の処理		
	9	現金預金(2)			
	10	商品取引(1)	商品売買に関する処理		
	11	商品取引(2)			
	12	売掛買掛(1)	売掛金および買掛金の処理		
	13	売掛買掛(2)			
	14	手形取引(1)	手形の処理		
	15	手形取引(2)			
16	期末試験				
テキスト	特になし ※資料を配布				
参考書	特になし				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				

東和IT専門学校 情報システム学科

開講年度	2022年度	開講学年	1年次	前/後期	後期
授業コード		必須/選択	必修	授業時間数	15時間
科目	簿記基礎				
教員氏名	南 薫伯				
授業の方法	講義及び演習				
授業概要	<p>①授業のテーマ 複式簿記について学習する。簿記上の取引を、借方と貸方に分けて記帳する技術を身につける。複式簿記の基本原理、簿記一巡の手続を学習し、簿記・会計学の基本的な事項を理解することを目的とする。</p> <p>②授業の内容 Excelを使って元帳、振替伝票、試算表を実装します。</p> <p>③事前準備学修 都度配布する資料を読んでおくこと。</p> <p>④事後展開学修 配布した資料中の問題を解き、理解を深めてください。疑問点は常に明確にしておくこと。</p>				
到達目標	日商簿記3級程度の記帳技術を習得する。				
授業計画 (15h)	No.	週ごとのテーマ	概要/キーワード		
	1	債権債務	債権債務の処理		
	2	固定資産(1)	固定資産の処理		
	3	固定資産(2)			
	4	有価証券(1)	有価証券の処理		
	5	有価証券(2)			
	6	資本(1)	資本金・引出金と税金、貸倒の処理と貸倒引当金		
	7	資本(2)			
	8	負債(1)	費用・収益の見越・繰延、消耗品の整理		
	9	負債(2)			
	10	決算(1)	決算整理と精算表の作成 (1)		
	11	決算(2)			
	12	決算(3)	決算整理と精算表の作成 (2)		
	13	決算(4)			
	14	まとめ(1)	本講義のまとめ		
	15	まとめ(2)			
16	期末試験				
テキスト	特になし ※資料を配布				
参考書	特になし				
評価基準	1.期末試験による総合評価(60%) 2.授業内での小テスト(ファイル提出を含む)と出席率(40%)				